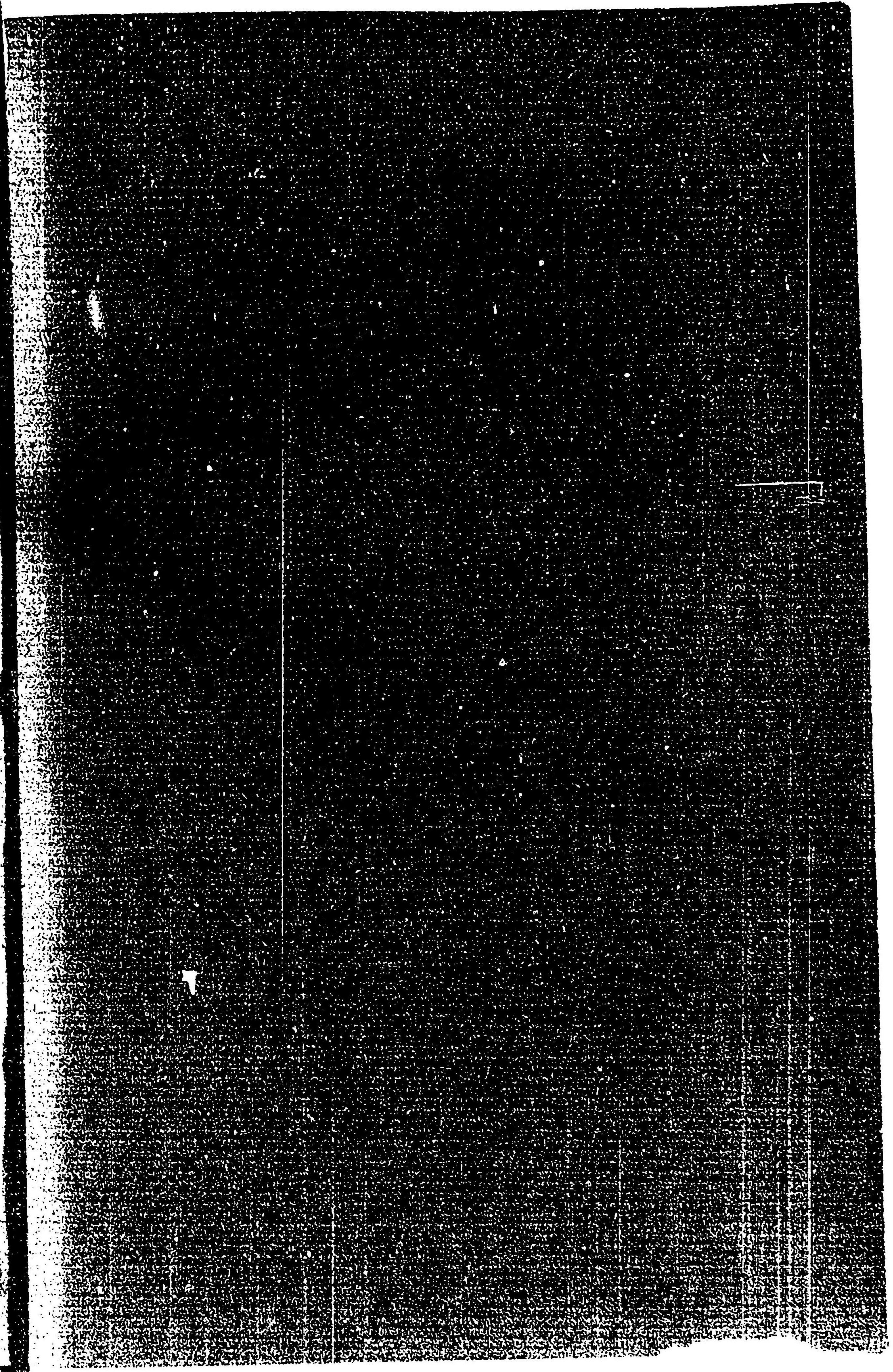


像肖主先ソルメエ國米



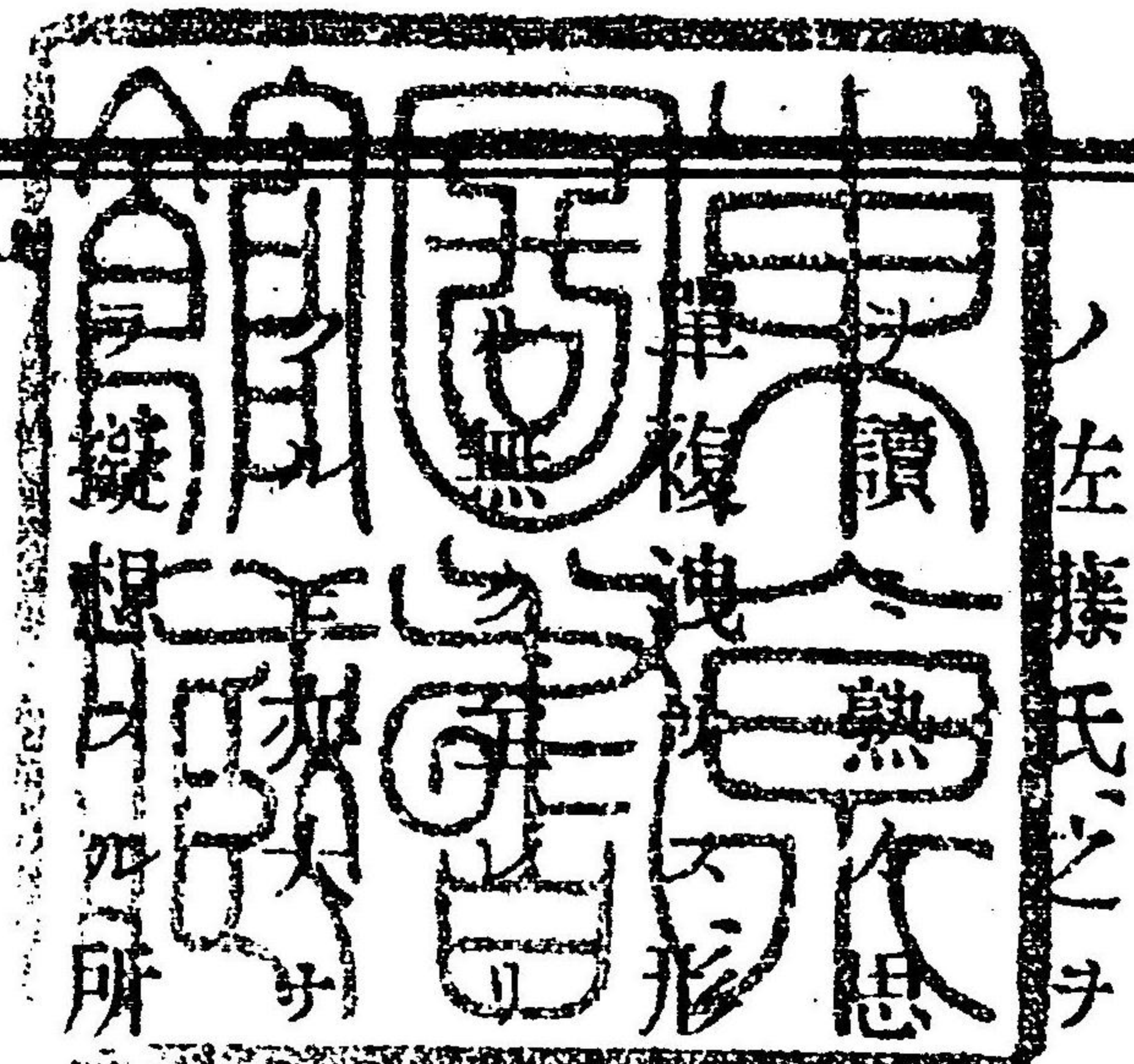


18-133

No 3057 / 23

文明論序

曩者米國ノエメルソン氏、Civilizationヲ著セリ、頃、 我郷



ノ左藤氏之ヲ文明論ト譯シ、方ニ梓ニ上セントス、予之ヲ著者ノ論スル所、文明ノ全體ニ於ケル、  
ニ因テ理ヲ擧ケ、着々ソノ肯綮ニ中ラサ  
盡セリトイフヘシ、後生予輩ソノ賜ヲ受  
リトス、予曾テ泛ク經史ニ涉獵シ、竊ニ自  
ラ繞想ハ、所アリ、因テ試ニソノ要ヲ提ルニ、文明ナル  
モノ、區界ハ、進歩ヨリ又進歩シ、進歩ノ極點ハ、人間社  
會ニシテ覆滅セサラン限ハ、窮極ノ際涯モ、亦程度アル

文明論序



下ナキ者ナリトス、故ニ形而上ヨリ之ヲ言ヘハ、天理原  
 則ノ許ス所ハ、交際益廣ク、優劣勝敗モ免ル能ハス、從テ  
 習慣法制モ煩密ナラサルヲ得ス、刺衝ニ因テ益醒悟シ  
 變化ノ爲メニ益改新スル等ノ事アリ、形而下ヨリ言ヘ  
 ハ、天造ノ功用ヲ亮ケ、宇内アラユル物々ハ、凡テ我用ヲ  
 爲サ、ル無ク、即チ河嶽トナク、氣電トナク、諸元素ノ類  
 盡ク使役ニ供シテ辞スルヲ得サル等ノ事アルカ如  
 シ、而シテ今之ヲ概計スレハ、白哲ノ人種、多數ヲ占メ、早  
 ク此ニ省知履行スルモノ、如シ、但其原由ハ未ダ測ル  
 ヘカラスト、雖モ現跡ハ即チ然リトスルナリ、而シテ之

ナ所謂世紀以前及ヒ以後ニ徴スルニ、一世々々ヨリ進  
 歩セシ能力ハ、以テ此十九世紀ヲ成シ來レリ、此ヲ以テ、  
 未來ノ世々々紀ニ推照スレハ、又ソノ進歩不窮無極ナ  
 ルノ徴モ、亦知ルヘキノミ、夫文ニ反スルモノハ、野ニシ  
 テ、明ニ反スルモノハ、闇ナリ、此ノ野且闇ナルモノ、極  
 點ヲ言ヘハ、ソノ劣下ナルノ度ナキモ、亦文明進度ノ際  
 涯ナキト同シク、劣々下々、體具ハルノ外形ハアルモ、獸  
 類ト相距ル遠カラストイフニ至テ止ムヘキノミ、獸類  
 ト雖モ、一箇ノ能力ハ、必ス人類モ及フ能ハサルノ長ア  
 リ、此ノ長アルハ、以テソノ護身トスル所ニシテ、或ハ之



チ生類ノ原則トモイハン歟、然レトモ、ソノ長ハ、只小ナリ、偏ナリ、短ナリ、淺ナリ、飽ト飢トニ出テ、懼ト樂トニ感ストイフニ過キス、今之ヲ概スレハ、黑人種中、殆ト此ニ近キモノアリトス、而ルニ往古ノ印度人種中、未タ必ス然リトスルニ非レハ、是亦其原由ハ未タ測ルヘカラス、之ヲ要スルニ、白黒ノ相反スル此ノ如ク、文野ト明闇トモ、亦相反スル此ノ如クニシテ、其以テ然ル所ノ原由ハ、共ニ未タ測ルヘカラサルモノ亦此ノ如キハ、他ナシ、即チ進歩ハ不窮無極ナルモノ、故ニ、後ノ世紀ノ爲ニ、猶或ハ此ノ餘地ヲ剩シ置クト云フモ可ナラン乎、著者ノ

所謂印度阿非理加ノ黑奴等、進歩セス遂ニ湮滅ニ歸セシトイフモノハ、之ヲ憫ンテ、ソノ極點ヲ論スルニ過キスシテ、原人タルノ原則ニハ非ルヘシ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、苟モ此ノ社會ニ人タルモノ、ソノ太古ノ初生ニ在テハ、共ニ文明野闇ノ差ナキナリ、而シテ後來遂ニ此ノ如キノ差ヲ免レサリシハ、何ソヤ、人々一箇腦漿ヨリ感觸シ出ダセル思想的ノ能力ニ、深淺長短等ノ差アリ云爾トイフニ過キサルヘシ、是其千差万別、ソノ面ノ如キヲ致ス所ニシテ、其傾ケルモノ、一文一野、一明一闇ノ懸隔トハ、爲レルナリ、斯ニ文明ヲ以テイヘハ、ソノ感觸ハ、



位置經驗ヨリ窮理ト作用ト並進シ息マス、至大至精ナル形器ノ構造運動ヲ見得ルニ至レルモノ、皆此ノ一思想力ナリ、又ソノ初ヨリ相待ナテ、之ヲ助クル最大ナルハ、記憶ノ繼續力ナリ、記憶ノ繼續力ハ、文字アリテ以來、最功用ヲ表シ、森羅セル萬象ハ、天上ノ天、地中ノ地、空際ノ分子、諸元素ノ利用等ノ如キ、ソノ初測度發見ハ、必ス一人ノ思想力ヨリ出テ、而シテ文字ハ、之ヲ積載貫徹シ、層々以テ此ノ無限世界ノ無數人間社會ヲ點綴シテ、進歩窮極ナキノ地ヲ爲ス者ナリ、故ニ原人ヨリ之ヲ言ヘハ、思想力ヨリ尊キハ無キナリトイフヘキノミ、苟モ

見ル所アリテ、此ノ地位ニ達セハ、所謂文明開化ナルモノ、世ノ古今ト、洋ノ東西ト、種ノ白黒トヲ問ハンヤ、知ラス、此ノ言要ヲ得ルヤ否、著者譯者ノ意如何ソヤ、特ニ更ニ之ヲ提ケ、世ノ讀者ニ問ハントス、云爾、

明治二十二年十一月二十八日東京ニ於テ、

青森縣上北郡牧老人 廣澤安任述

我有思想力、物有固有理、我與萬物觸、彼此合而格物致知之功始矣、而其至於終也、無限極矣、高論先獲我心、

同年十二月三日

中村正直拜讀



題詩

佐藤千里余同鄉人也譯米國碩儒維君所著文明論使  
余序卷首余辭曰維君文深奧雋永余未能叩蘊底安得  
應子需然余嘗詣維君墓感其文學高於一世賦詩吊之  
今追錄以代序

花落鳥啼水自流、維君墓畔惹新愁、  
文感鬼神行化世、天爵更高萬戶侯、

己丑極月念日

東海散士



文明論序

人ハ企業ニ銳ニ、國ハ財貨ニ雄ナリ、新約克埠頭自由ノ  
神像ハ、直チニ星斗ヲ摩セント欲シ、武留克林海峽ノ鐵  
橋ハ、長蛇ノ洋心ヲ奔ルカ如シ、曰ク鐵道、曰ク電信機、曰  
ク電燈、曰ク蓄音機、曰ク組合會社、曰ク依托法、人功極リ  
テ天工ヲ奪ハントス、物質的ノ開發ハ、富ノ増殖ト、相因  
縁シテ乗倍ス、此ノ熱々鬧々タル乾坤ニ在リテ、清冷幽  
靜、別ニ一家ノ天地ヲ占メ、其國民ヲ警醒提誘スルモノ  
ハ誰ゾ、

エメルソン先生是ナリ、



先生行篤ウシテ徳高シ、其ノ思想精妙、片言以テ機微ニ透徹スルモノアリ、人或ハ時ニ其ノ意義晦澁、文辭斷續スルヲ病フルモ、要スルニ砂中ヨリ金ヲ拾フカ如シ、一歩ニ寸金アリ、十歩ニ尺金アリ、批評家マシウ、アルノルド敢テ輕シク人ニ許サス、然レトモ先生ヲ配スルニ、フランクリンヲ以テシ、以テ米國ノ二大人ト云ヒ、先生ノ文、ウォールドスウォルスノ詩ヲ以テ、十九世紀ニ於ケル英語著作ノ最要ノ書トナセリ、其ノ當世ニ重セラル以テ知ル可シ、宜ナリ米國ノ人民先生ヲ尊崇シテ之ヲコンコルドノ聖人ト稱スルヤ、コ

ンコルドハ新英州先生ノ草廬ノ在ル所也、

先生没シテヨリ既ニ七年、其ノ流風餘韻延イテ我邦ニ及ヒ、其ノ文ヲ誦スルモノ一ニシテ足ラス、頃會津ノ佐藤君重紀、其ノ一ヲ譯シテ文明論ト云ヒ、序ヲ余ニ需ム、ソレ先生ノ言簡奧、一句万意ヲ包ム、之ヲ解スル容易ニアラス、況ンヤ之ヲ邦文ニ譯スルヲヤ、而シテ佐藤君ガ大胆ニモ此業ヲ試ムルモノハ何ソヤ、先生言ヘルコトアリ、プラトノ思フ所汝亦思フヲ得、聖人ノ感スル所汝亦感スルヲ得、如何ナル時ニ於テ如何ナル人ノ於テスルコトモ、汝亦了悟スルヲ得ント、佐藤君ソレ此言ニ



鑒ミル所アル歟、余平生好シテ先生ノ文ヲ讀ム、特ニ人  
 ナシテ、勤勞、正善、篤行、總テ精神的ノ生活中ニ於テ、其ノ  
 幸福ヲ求メシムル先生ノ福音ニ隨喜スルモノナリ、故  
 ニ佐藤君ノ請ヲ辭セス、聊蕪言ヲ陳スル此ノ如シ、余豈  
 ニ敢テ先生ノ譯文ニ序スルト云ハンヤ、唯先生ヲ讀者  
 ニ紹介セント欲スルノ微意ニ過キサルノミ

明治二十二年十二月民友社ニ於テ

蘇 峯 生

文明論 自序

余ハ會津ノ産ナリ、幼ニシテ戰難ニ遭ヒ、家國傾覆ノ餘  
 北陲ニ遷サレ、窮巷絕閭ノ間ニ生長セリ、當時闔藩瓦解  
 一族分散シテ蓬轉萍漂ノ際、猶幼穉ナルヲ以テ嬉遊無  
 心酸辛ヲ嘗ムルコト長者ノ如ク甚深カラスト、雖モ然  
 レトモ霜晨雪夕薪ヲ負ヒ薇ヲ採ルノ狀、經營慘憺、今尙  
 眉睫ニ懸リ忘レント欲シテ忘ル、能ハス細雨蕭條、四  
 邊人ナキノ時、往事ヲ回想シテ涕泗ノ願ニ交ハルヲ覺  
 エサルナリ、天耶命耶、否運此ノ如シ、子弟教育ノ事ノ如  
 キ固ヨリ慈親ノ心ニ存スト、雖モ勢自ラ忽諸ニ附セザ



ルヲ得ス余輩學問時ヲ失ヒ百事人後ニ落ツ素ヨリ其  
 數ナルノミ將誰ヲカ咎メンヤ試ニ思ヘ邊僻遐陬伍ス  
 ル所ハ閭里ノ狡童書ノ以テ讀ムヘキナク師ノ以テ問  
 ヘキナシ苟物徂徠其人ノ如キニアラスンハ鹹烟蜚雨  
 ノ外ニ身ヲ持シ心ヲ潛メ能ク他日ノ地ヲ爲スヲ得  
 シヤ既ニ少年稍長スルニ及ヒ幸ニ父老ノ村塾ヲ開ク  
 アリテ漸ク文字ヲ知ルヲ得次テ昭代庠序ノ設四隅ニ  
 浹洽スルニ會シ聊聖賢ノ遺訓ヲ聞キ古今ノ興廢ヲ悟  
 ルヲ得タリ余嘗テ陳龍川ノ文ヲ誦シ研究義理之精微  
 辨拆古今之同異推倒一世之智勇開拓萬古之心胸ノ句

ヲ愛シ又藤田東湖ノ傳ヲ讀ミ其志尙スル所亦之ニ存  
 スルヲ知レリ是ニ於テ深ク哲人着眼ノ高遠ナルニ感  
 シ心竊ニ之ヲ欽ヒ奮テ企及セント欲ス自ラ志ノ徒ニ  
 大ニシテ才ノ偏ニ副ハサルヲ知ル但驚ヲ以テ駿ヲ追  
 フ敢テ及ハスト雖モ鞭撻シテ休マサルハ是生ノ平生  
 ニ期スル所ナリ然ルニ性虛羸病ヲ以テ學ヲ廢スルモ  
 ノ數次昨夏又激症ニ嬰リ居ヲ閉テ客ヲ謝シ一室ニ平  
 臥シテ日夜醫藥ニ親ミ荏苒癒エサルモノ茲ニ九閱月  
 帙ヲ繙キ管ヲ執ルカ如キハ國手ノ禁スル所トス昔賴  
 山陽深憂ヲ抱キ刻苦勵精燭ヲ以テ晷ニ繼キ終ニ之ヲ



以テ病ヲ得咯血數斗漸ク膏盲ニ入ルニ及テ自ラ其長カラサルヲ知ル而シテ坦然恐レヌ述作常ノ如シ何ソ其勇ナルヤ惟フニ先生志遂ケ名成リ鴻業ノ以テ世ニ顯レ後ニ傳ハルモノアリ此ノ如クニシテ願既ニ足ル何ソ又區々形骸ヲ愛スル小人婦女ノ爲ヲ學ハンヤ嗚呼先生ノ勇ハ先生ニシテ始メテ之ヲ爲スヘシ年少才疎余輩ノ宜ク倣フヘキ所ニアラサルナリ然ラハ則チ青年異日ノ大成ヲ期スルモノ須ク其身ヲ愛重セサルヘカラス故ニ余今唯攝養ノ未タ至ラサルアリテ空ク快復ノ期ヲ遲ウシ志業ノ成ル或ハ後レ或ハ中道ニシ

テ阻スルアラシトナ懼ル、ヤ暫ク筆册ヲ斥クルノ已ムヲ得サルモノアリ其然リ然リト雖モ陶淵明カ所謂盛年重不來、一日難再晨、及時當勉勵、光陰不待人、ノ時ニ方リ白駒過クルニ任セ漫然トシテ優遊ス志士血性アルモノ、殆ト堪フル能ハサル所余愚ト雖モ一念之ニ及ヘハ中夜禱上神澄ミ眼醒メ萬感胸ニ攢リ鷄鳴眠ヲ結フ能ハサルコト往々之アリ吁嗟蒼天其レ知ルアラハ蓋ソ速カニ余ノ病ヲ除カサル抑余ヲ以テ能ク爲スコトナシトスルカ頃日病勢漸退キ間暇無聊偶篋底ヲ探リテ舊稿ヲ得タリ卽是余カ前年講學ノ際試ニ米



人えめるそんノ論文ヲ翻譯シテ以テ練磨ノ資ト爲シタルモノ乃復隨時隨意毫ニ任セテ雌黃ヲ施シ刪潤舗張シテ終ニ小冊ヲ成セリ題シテ文明論ト曰フ余ガ文章ノ如キハ素ヨリ病餘消遣ノ拙作見ルニ足ルモノナシト雖モ原著ハ夙ニ洛陽ノ紙價ヲシテ貴カラシメタルモノナリ故ヲ以テ友人或ハ世ニ公ニセンコトヲ勸ム余依リテ思ヘラク我邦開港以來泰西ノ文物技藝靡然トシテ輸入シ來リ法律憲章ノ粲然タル機器製作ノ巧緻精妙ナル變遷開化一ニシテ足ラス之ヲ三十年以前ノ社會ニ比スルニ光景豹變純然タル別乾坤ナリ其

進歩ノ神速ナル猶駟馬ニ鞭ナテ急阪ヲ下ルガゴトキモノアリ蓋我邦ノ激變ハ古今ノ多ク例ナキ所天保年度ノ耆老ヲシテ驚倒セシムルモノ實ニ怪ムニ足ラズ然リト雖唯其レ激變ナリ故ニ其變化多クハ表面ニ止リテ未ダ裏面ニ達セズ過去ノ瞶眼ヲ以テ現在ノ新裝ヲ瞥見スレバ其絢爛輝耀ナル眩スヘキモノアリト雖モ一タヒ秦鏡ヲ取リテ之ヲ照サハ其衣服ノ美ハ肺腑ノ醜ト相適ハサルヲ見ン試ニ英國ノ老すべんさーヲシテ東瀛ノ蓬萊ニ藥ヲ求メシムルコトアラハ宛モ同氏カ數年前米國ニ遊ビ一ニハ肩ヲ聳シテ贊嘆シ一ニハ



眉ヲ蹙メテ大息シタルカ如ク亦將ニ我邦客觀的開化ノ美ニ一驚ヲ喫シ而シテ更ニ其主觀的ノ空乏ナルニ再驚ヲ喫セントス嗚呼時弊ノ赴ク所風教未ダ擧ラス巧譎日ニ長ス内ヲ忘レテ外ニ趨リ本ヲ務メスシテ末ヲ是競フ滔々タル天下皆然ヲサルハナシ「譬ヘハ冠玉ノ如シ外美ニシテ中空ナリ」所謂文明開化ナルモノ豈是ニ在ランヤ夫レ道德綱紀ノ張弛ハ國家隆替ノ原トコロ思ハサルヘケンヤ元氏ノ此篇論スル所殊ニ這般ノ問題ニ就テ意ヲ致スコト再三切實痛割ヲ極ム則以テ時流頂門ノ一鍼ト爲スニ足レリ是ニ於テ自ラ

譯述ノ陋劣ヲ以テ敢テ辭セス遂ニ梨棗ニ災スルニ至レリ世人若シ幸ニ元氏ノ言ニ鑑ムル所アラハ庶幾クハ聖明ノ文華表裏主客ノ觀ヲ併セ得テ始メテ卞和ノ完璧タルヲ得ントス果シテ然ラハ余カ素懷因リテ以テ少ク伸フル所アラントスルナリ聊所感ヲ記シテ以テ自序ト爲ス

明治二十二年孟春東京客舍ニ於テ

千里生識ス

此自叙ハ余カ昨春病裡ニ草スル所其前半ノ言ノ如キハ當時胸腔ノ鬱勃タル磊塊遺ルニ所ナク覺エス



文字ニ溢レタルモノナリ今ニシテ之ヲ見レハ本書ノ旨趣ニ於テ固ヨリ關スル所有ルニアラス殆是贅疣宜ク削除スヘキ者ニ属ス然レトモ其時其境ノ感期セスシテ發スルモノハ眞率却テ好ミスヘキモノナキニアラス叙中ノ語他ノ觀テ以テ無用ト爲スモノ余ニ於テ雞肋ノ情ナキテ得ス故ニ今敢テ改メサルナリ讀者コレヲ諒セヨ

明治二十三年三月

重紀生又識

文明論

例言三則

一本書ハ米人ハメルそん氏著ス所ノ Civilization ト題スル一篇ノ論文ヲ譯述シタルモノナリ  
 一著者ノ原文ハ言辭簡健ニシテ而シテ含蓄ハ至ツテ深奥ニ議論高尙ニシテ而シテ命意ハ甚奇拔ナリ譯文ハ稍之ニ異ナリ則テ務メテ其短句ノ玄妙ヲ闡明シテ以テ之ヲ敷衍平叙シ偏ニ趣旨ノ透徹センコトヲ要セリ若シ夫レ落想ノ非凡ナル所見ノ卓絶ナルハ讀者ノ須ク玩味スヘキトコロタリ唯恐ラクハ譯



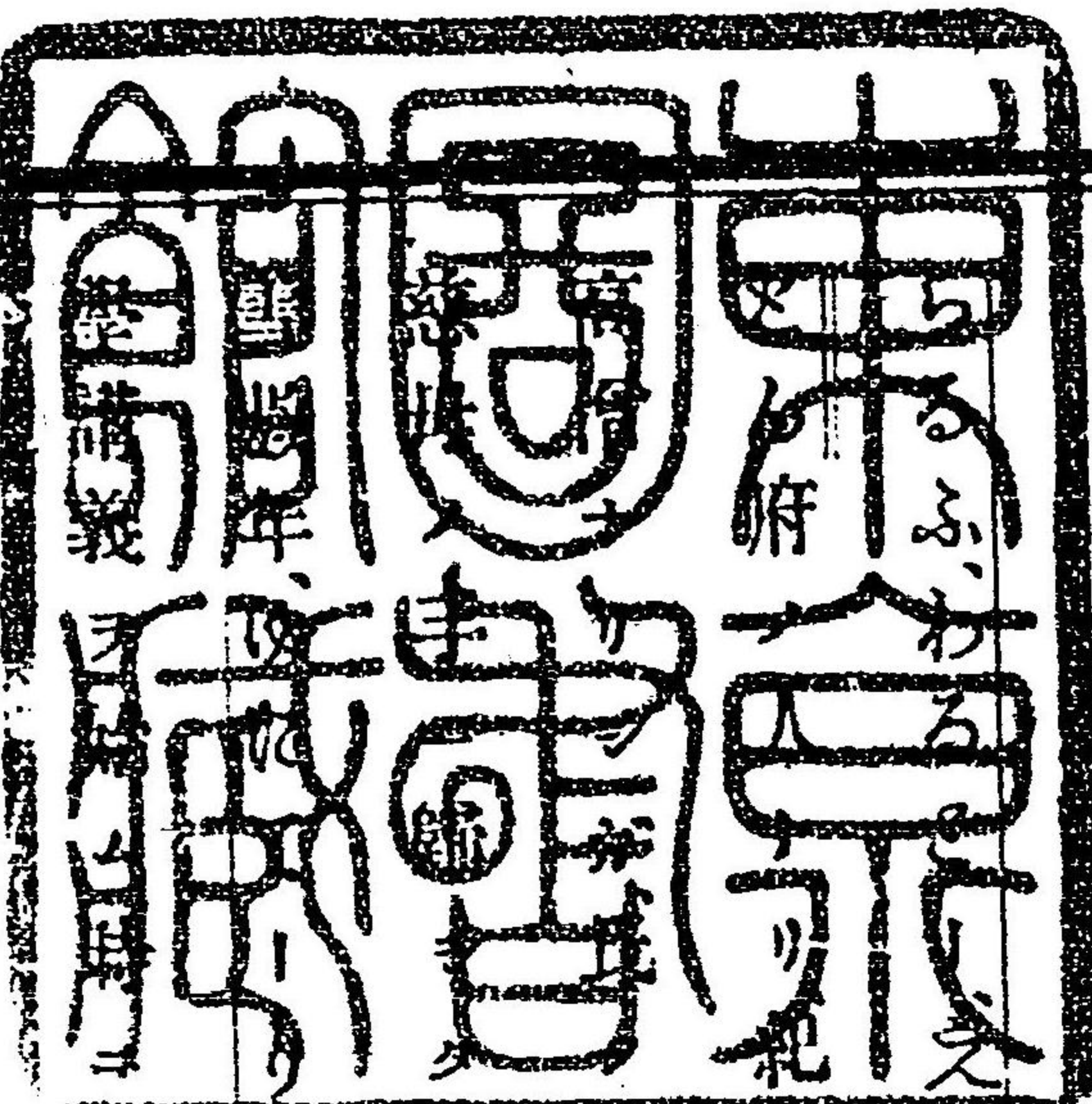
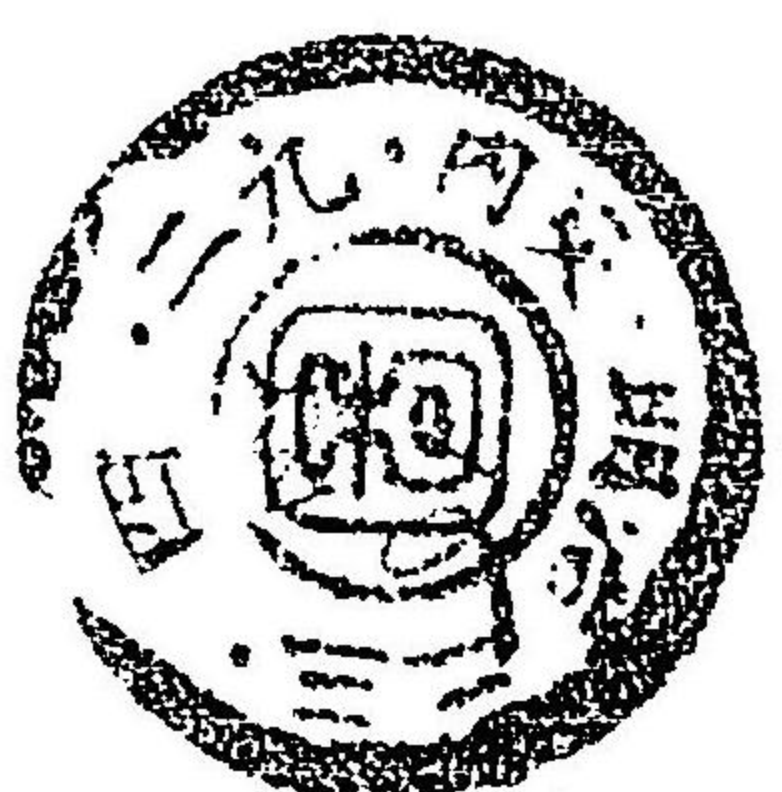
者才學謏劣鑽仰及ヒ難ク皮相ヲ看テ眞諦ヲ解セス  
意到リテ筆從ハサルモノアラシクトチ大方博士ノ  
叱正ヲ得バ幸甚

一本論附スルニ著者ノ肖像及小傳ヲ以テス蓋譯者ノ  
婆心讀者ヲシテ其爲人ヲ想見セシメント欲スルニ  
在リ



文明論附錄

著者にめるそん氏小傳



にめるそん氏 (Ralph Waldo Emerson) ハ、北米合衆國にす  
元一千八百〇三年ニ生ル、父ハふるてすたんと教ノ  
尙幼ナル時、早ク世ヲ辭シタルヲ以テ、其教育ハ一ニ  
リ、年未タ弱冠ナラザルニ、ハバード大學ニ入り、盛  
あん教會ノ教師ニ舉ケラレ、ぼすとん會堂ニ於テ、神  
年二十四ナリ、在職六年、故有リテ教會ヲ辭シタレト  
モ、其講義ハ尙之ヲ繼續シテ前後十二年ノ久キニ亘レリ、二十八歳ニシ  
テ始メテ妻ヲ迎ヘタリシカ、不幸ニシテ、伉儷ノ歡長カラス、三年ノ後、續  
居ノ身トナル乃チ氏ハ行李ヲ理メ、飄然トシテ海ニ航シ、歐羅巴ニ至リ



佛蘭西、以太利、英吉利ノ諸邦ニ遊ビ、一代ノ大家哲人ト交リ、鏢ヲ連チテ並ビ馳セ、談論上下以テ相攻メタリ、一千八百三十四年歸來、伊予トシテ府内ノ紅塵煩擾ヲ避ケテ、幽靜ノ居ヲこんこるどニトス、時ニ府ニ出テ、主トシテ史傳ニ關スル講說ヲ爲スコトヲ常トセリ、蓋こんこるどハ、亞米利加ノ歷史上文學上ニ著名ナル關係ヲ有スル土地ニシテ、清風明月、閑雅ノ一仙郷ナリ、即是富人ノ麗屋ヲ營マンヨリ、寧ロ學士ノ精舍ヲ結フニ適セル所ナリ、氏年三十三ニシテ再ヒ妻ヲ娶ル、一千八百三十六年ニ至リテ、始メテ彼有名ナル超絶俱樂部 (Transcendental Club) ヲ設立シ、而シテねーちあ (Nature) ト題スル一小冊ヲ刊行セリ、越テ四年、まーがれど、ふるらー氏及ヒ超絶學派諸士ノ機關雜誌タルたいある (Dial) ノ出ルニ及ヒ、創業四星霜ノ間、常ニ名論卓說ヲ寄送シテ、以テ氣餒ヲ吐キ、光彩ヲ添ヘタリ、一千八百四十七年復舊大陸ニ赴キ、ろんどん、まんちす、すた

一、及ビばりーノ諸府ヲ遍歴シ、淹留年ヲ送リ、各所ニ得意ノ講演ヲ爲シ、大ニ喝采ヲ博セリ、一千八百四十一年氏ハ其論集第一卷ヲ出版シテヨリ以來、或ハ詩、或ハ文、種々ノ重要ナル著述ヲ歲々世ニ公ニセラレ、皆廣ク江湖ニ傳播セリ、蓋奇警ノ語、天秘ヲ穿テ、善諷ノ言、道德ヲ鼓舞スルモノ多シトス、一千八百七十二年氏ノ家、圖ラズ祝融ノ災ヲ被ムルニ及デ、三タビ歐洲ニ遊ビ、觀光一年許ニシテ國ニ歸ル、然レトモ是時氏ノ高齢既ニ古稀ヲ過ギ、氣力思想復前日ノ活潑靈動ヲ見ル能ハサリキ、加フルニ晩年健忘症ニ罹リ、記憶力ノ減衰ハ時アリテ、氏ノ純潔安靜ナル生活ヲ撥スコアリ、恰モ青天ニ斑雲ヲ點スルカ如キ、小累ヲ免レサリシガ、一千八百八十二年遂ニ平和ナル天壽ヲ終フ、享年八十ナリ、氏ハ幽莊ニ退隱シテ、哲理ヲ究ムルコト、凡五十年、國民其風采ヲ望ム、テ歸依尊仰スルコト宛モ葵ノ日ニ向フカ如ク、稱スルニこんこるど聖人 (Saint of Concord) ノ



號ヲ以テシ、敢テ名イハズ、而シテ今ニ至リテ、名聲ノ噴々タル死猶生ケルガ如シ、實ニ氏ハ亞米利加ニ於ケル最精微最原始ノ思想家ナリ、啻ニ亞米利加ノ大家タル名譽ヲ受クヘキノミナラス、眞箇ニ第十九世紀全世界ノ大人タリ、而シテ其議論ノ該博幽玄ナルニ至リテハ、常ニ尋常學士ノ思ヒ到ラサル所ニ出デ、所謂超絶哲學者ノ目アル空シカラスト謂フベシ、其著述ノ最主要ナルモノハ、論集 (Essays) れぶれせんたちぶ、めん (Representative men) 及えんぐりじ、とれーつ (English traits) 等ノ書トス、

## 文明論

米國　えめるそん　著  
日本　佐藤重紀　譯述

緒論  
文明ノ定義

本論ノ冒頭ニ於テ首トシテ究明スヘキモノハ文明即開化トハ如何ナル義ナリヤト云フ問題はナリ凡人類ノ得テ生存スル野蠻粗樸ノ情態ヲ觀ルニ奇怪驚クヘキモノアリ、獐猛惡ムヘキモノアリ、陋劣憫ムヘキモノアリ、千種万狀、歷舉ニ違アラスト、雖モ茲ニ其最甚キ蠻風三例ヲ揭示セシニ、或ハ洞窟樹鼠ニ宿棲ノ安樂恬爲恰モ猿狄ニ似タルノ生活ヲ爲スモノアリ、或ハ弱肉強食同類相食ミ以テ意ト爲サ、ハル虎狼ノ如キ醜類アリ、或ハ蠢愚ニシテ食物ヲ得ルノ法ヲ知ラス、蝸牛ニモアレ、蚯蚓ニモアレ、其他汚穢物ニモアレ、手ニ



號ヲ以テシ、敢テ名イハズ、而シテ今ニ至リテ、名聲ノ噴々タル死猶生ケルガ如シ、實ニ氏ハ亞米利加ニ於ケル最精微最原始ノ思想家ナリ、嘗ニ亞米利加ノ大家タル名譽ヲ受クヘキノミナラス、眞箇ニ第十九世紀全世界ノ大人タリ、而シテ其議論ノ該博幽玄ナルニ至リテハ、常ニ尋常學士ノ思ヒ到ラサル所ニ出テ、所謂超絶哲學者ノ目アル空シカラスト謂フベシ、其著述ノ最主要ナルモノハ、論集 (Essays) 九つ、*Representative men* 及 *えんぐりしとれーつ* (English fruits) 等ノ書トス、

# 文明論

米國 えめるそん 著  
日本 佐藤重紀 譯述

緒論  
文明ノ定義

本論ノ冒頭ニ於テ首トシテ究明スヘキモノハ文明即開化トハ如何ナル義ナリヤト云フ問題はナリ凡人類ノ得テ生存スル野蠻粗樸ノ情態ヲ觀ルニ奇怪驚クヘキモノアリ、**猛惡ムヘキモノアリ陋劣憫ムヘキモノアリ千種万狀歴舉ニ違アラスト雖モ茲ニ其最甚キ蠻風三例ヲ揭示センニ或ハ洞窟樹巢ニ宿棲ノ安樂恬爲恰モ猿狄ニ似タルノ生活ヲ爲スモノアリ或ハ弱肉強食同類相食ミ以テ意ト爲サ、ル虎狼ノ如キ醜類アリ或ハ蠢愚ニシテ食物ヲ得ルノ法ヲ知ラス蝸牛ニモアレ蚯蚓ニモアレ其他汚穢物ニモアレ手ニ**



從テ之ヲ取り搗潰混和シテ以テ僅ニ口腹ニ給スルモノアリ此數者ノ類ハ俱ニ人間生活ノ最劣等ナル者ニシテ野蠻ノ極點ニ位スト謂ハサルヘカラス抑開化トハ果シテ是レ如何ナル義ソヤ他ナシ此等ノ最野蠻ナル情態ヨリ進化シ來リテ達シ得タル人間生活ノ某程度ニ名ケタル文字ナルナリ余カ今某程度ト稱シテ一定ノ境遇ヲ明示セサル所以ノモノハ元來開化ナル語ハ其包意漠然複雜ニシテ甲ノ情態ニモ乙ノ情態ニモ用ヒラレ齊ク開化ト稱スルモ其間大ニ逕庭ヲ存シ高低種々ノ進度ヲ指示スルモノナレハナリ故ニ古ヨリ未ダ曾テ一人ノ之カ定義ヲ下セシモノアルヲ聞カス彼ノ有名ナル碩學ギゾー氏ノ如キハ歐洲文明史ノ大論著アリシニモ拘ヲヌ尙其定義ヲ與フルコトヲ肯テ

セサリキ要スルニ開化トハ高等ノ機關ヲ備具セル人類即チ實行力宗教自由廉恥風韻等ニ於ケル最高精美ノ感情ヲ稟有シタル吾人々類ノ進化發達ヲ含ミ稱スルナリ夫レ事ヲ論スルニソレハ云々ナリト正面ヨリ肯定ノ斷言ヲ爲シ難キトキニ方リテハ吾人ハ常ニ反面ヨリ否定ノ法ヲ以テ之ヲ説明スルヲ便トス然ラハ則今開化ナル語ノ義理ヲシテ一層明瞭ナラシメンカバニ試ニ問ハシ野蠻トハ何ソヤ野蠻トハ衣服ナク鐵器ナク文字モ知ラス婚姻ノ事ヲモ辨セズ安全ナル生活ノ藝術ヲモ解セズ抽象思想ヲ有セサル人種ノ謂ニシスノ如キモノハ即開化セサルモノナリ然リト雖モ若シ夫レとるくすむトリシ人民ノ如ク既ニ幾多ノ技術ヲ自ラ發明スルカ若シハ他ヨリ傳習スルニ至リテハ



文明ノ發達

其發達ノ情態

勿論野蠻ノ域ヲ超脱セルモノト謂フヘシ  
 開化ノ性質ハ人民ニ從リテ同一ナラス各種ノ人民ハ各其  
 人民固有ノ性質ニ從テ發達進化スルモノニシテ何レノ人  
 民モ皆一種特別ノ開化ヲ占有スルモノナリ故ニ支那人ニ  
 ハ支那人ノ開化アリ日本人ニハ日本人ノ開化アリ假令兩  
 國ノ人民ヲシテ各其性質ノ趨ク所ニ從ヒ十分ノ開化ヲ遂  
 ケシムルニモセヨ其開化ノ性質タルヤ固ヨリばりーヤニ  
 ざりつとヤろんぞんヤニ一よるく府民ノ開化ト異ナラサ  
 ルヲ得サルナリ蓋シ此開化ナル語ニ含蓄セル進歩ノ意ハ  
 實ニ奧妙深遠ナルモノアリテ存セリ試ニ看ヨ禽獸ニ開化  
 ナルモノアリヤ否ヤ決シテ有ルコトナカルベシ又人類ニ  
 至リテモ禽獸ト相距ル遠カラザル野蠻ノ人種ハ今日開化

スルコト能ハズシテ却テ退歩シ畜ニ退歩スルノミナラズ  
 生存ヲ全ウスルコト能ハズ漸々劣敗氓滅ニ歸シテ已ムモ  
 ノ多キナリ亞米利加印度人ハ白哲人種ノ工藝事業ニ通ズ  
 ルコト能ハズ而シテ之ニ勸ムルニ彼舊慣故習ノ弊ヲ去リ  
 妄信謬說ノ傳來ヲ排斥スルコトヲ以テセバ忽チ鬱憂恐怖  
 シテ悲嘆ニ沈ミ其無氣力ナルコト若シ白哲人種ノ一睥睨  
 ニ逢フコトアラバ則チ眩目失心シテ走り且ツ僞レノミ  
 又阿非利加今時ノ新黒奴ハ依然タル紀元以前ノ舊黒奴ニ  
 シテ古昔希臘ノ大歴史家ヘロドタス氏ガ埃及旅行ニ觀察  
 記録シタル其情態ハ第十九世紀ノ今日ニ至リテ異ナル所  
 ナク悠々タル二千三百年ノ間毫モ改良進歩ノ跡ヲ見ズ豈  
 憫ムベキニアラズヤ然リ而シテ其他世界ノ人種ガ天然ノ



生長ヲ防礙セラレズシテ漸次ニ發達開化セシ情態ヲ察スルニ一人民初世ノ進歩ハ恰モ一箇人幼時ノ生長ト相似タリ俚諺ニ所謂小兒ノ上牙ヲ脱スル時トハ幼童カ遊戲三味ノ境遇ヲ一轉シテ精神上ニ改新ヲ爲スノ時期ニシテ是ヨリ以徃ハ時ヲ退フテ幼稚ノ妄想痴念ヲ消去シ放心ニ代フルニ留意ヲ以テシ矇矓過眼ハ則チ醒覺刮目トナリ真正ニ事物ヲ考察スルノ能力ハ漸ク以テ地歩ヲ占ムルニ至ルナリ而シテ一種族ノ人民カ蒙昧ノ籠籠ヲ脱シテ開化ニ向フノ狀モ亦之ニ異ナルコトナシ要スルニ兒童モ人民モ更進スノ如キ所以ノモノハ時期此ニ至リテ進歩ノ一大秘法ヲ自得スルニ依リテ然ルナリ秘法トハ他ナシ依頼所動ノ地位ヲ離レテ獨立自助ノ運動ヲ爲シ徒ニ既定ノ思想ニ羈カ

此種新事  
物ノ出現  
ハ此ノ時  
期ニ至ル  
ニ至ルナ  
リ

其發達ノ機會

レ、自、ラ、巴、カ、心、力、ニ、訴、へ、聯、合、比、較、推、論、辨、證、ノ、作、用、ヲ、練、習、ス、ル、ヲ、イ、フ、ナ、リ、凡、ソ、人、民、ノ、進、步、ヲ、促、ス、ノ、機、會、ハ、何、ニ、モ、ア、レ、一、種、新、奇、ナ、ル、事、物、ヲ、以、テ、長、夢、昏、々、ヲ、ル、野、蠻、ノ、頭、腦、ニ、一、針、ヲ、加、へ、之、ヲ、警、醒、シ、之、ヲ、激、勵、シ、驟、然、自、作、敢、テ、變、更、ヲ、試、ミ、ン、ト、ス、ル、ノ、勇、氣、ヲ、興、起、セ、シ、ム、ル、ニ、在、リ、即、チ、優、等、ナ、ル、他、國、人、ア、リ、テ、珍、異、新、奇、耳、目、ヲ、驚、カ、ス、所、ノ、技、藝、ヲ、傳、へ、以、テ、其、人、民、ヲ、教、育、養、成、ス、ル、ニ、ア、ル、ナ、リ、而、シ、テ、其、他、國、人、ナ、ル、モ、ノ、ハ、固、ヨ、リ、高、尙、ニ、過、シ、ル、ノ、學、識、ア、ル、ヲ、要、セ、サ、レ、ト、モ、唯、須、シ、其、教、育、セ、ン、ト、欲、ス、ル、所、ノ、人、民、ト、痛、痒、ヲ、分、チ、甘、苦、ヲ、俱、ニ、ス、ル、ノ、同、情、ヲ、保、チ、且、ツ、其、言、語、ヲ、知、リ、信、任、ヲ、受、ケ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、是、ヲ、以、テ、何、レ、ノ、人、民、ヲ、問、ハ、ス、更、新、改、良、ノ、創、始、ニ、際、シ、テ、ハ、常、ニ、か、ど、ま、す、び、ぜ、あ、す、ま、ん、こ、か、ば、つ、く、諸、氏、其、人、ノ、如、キ、先



其發達ノ土地

進誘導ノ士ナクンバアルベカラス而シテ斯ノ如キ機會ハ多ク沿海水利ニ富ムノ土地ニ於テ生シ易キモノニシテ古來學術長進ノ地ハ常ニ商業發達ノ地ト同ク概皆海濱ニ在ルナリ故ニ最多ク開化シタル所ノ人民ハ総テ是最多ク航海シタル所ノ人民ナリ蓋シ草昧ノ世水ヲ渡リ海ニ航スルハ元來容易ノ業ニアラス如何シテ風波ヲ凌クヘキカ如何シテ帆楫ヲ操縦スヘキカノ問題ハ海邊ノ住民ニ智識ヲ研クノ刺衝ヲ與ヘ遂ニハ彼愚蒙ヲ導テ伶俐ナラシメ鄙野郎ヲ化シテ偉丈夫ヲラシムルニ足ルナリ且漸ク航海ニ熟シ四方ニ巡歴スルニ至リテハ數多ノ海岸ヲ經數多ノ人民ニ接シ因リテ以テ見聞ヲ廣メ經驗ヲ積ミ隨ツテ生スル所ノ結果ハ小心苟安ノ怯臆ヲ鍛鍊シテ大膽邁往ノ氣象ヲ成シ

自由ト智識ノ成續

家屋ノ遺營ハ文明ノ發達ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤ

彼ノ故郷ノ茅屋ニ戀々タルノ感情ヲハ腦底ヨリ一掃スルニ至ルナリ

古ヨリ今ニ至ルマテ各種ノ人民カ成シ遂ケタル所ノ開化ノ効績ハ甚多シ人生ノ自由ニ一步ヲ進捗スルト智識ノ應用ニ一機軸ヲ出ストハ共ニ人間ノ生活ニ至大ノ關係ヲ及ホスモノニシテ此自由ト智識ノ成績ハ實ニ社會ノ面目ヲ一變シ歷史上維新ノ一紀元ヲ剛スル所ノ價值アルモノナリ余ハ今茲ニ開化ノ成績ヲ叙述セントスルニ方リ當サニ許多ナル目次ノ那邊ニカ筆ヲ起シ那邊ニカ筆ヲ収ムヘキ請フ逐次ニ之ヲ論セン

開化ノ成績ノ第一トシテ見ルヘキモノハ家屋ノ遺營ナリ人苟クモ木ヲ構ヘ茅ヲ葺キ石ヲ疊ミ土ヲ塗リ以テ身ヲ隱



スヘキ所ヲ作ルニ至レハ其結果ヤ生活ニ安寧ヲ増シ爪牙  
 ナキ裸体ニ權力ヲ生シ精神ノ發達ヲ促シ開化ヲ致スニ於  
 テ無限ノ幫助トナルモノナリ夫ノ洞穴ニ宿シ郊野ニ屯シ  
 到ル所ノ草葉木根ヲ以テ一日ノ枕席トナシ常ニ遊牧ヲノ  
 ミ事トスルノ民ハ生キテ何ノ爲ス所ナク死シテ一物ヲモ  
 留ムルコトナシ蚩々タル其狀之ヲ彼等ガ驅使スル牛馬ニ  
 比シテ毫モ優ルトコロアルヲ見サルナリ然ルニ假令工作  
 ノ簡單粗惡ナルニモセヨ僅ニ一箇膝ヲ容ル、ノ屋舎ヲ構  
 造シ得ハ即是人間カ外圍ノ敵患ヲ防禦スル所ノ儼乎タル  
 一座ノ城廓タルナリ猛獸鷲鳥ノ搏噬因リテ以テ免ルヘク  
 嚴霜赫日モ其威ヲ失ヒ慘風苦雨モ亦其力ヲ逞ウスルコト  
 ヲ得ズ是ニ於テ屋内ノ人始メテ悠然安居シテ生ヲ樂ムヲ

得ヘシ既ニ身体ニ閑靜ノ餘地ヲ得ルコト此ノ如クナレバ  
 之ト同時ニ精妙ナル心力ハ始テ發芽暢育シテ漸次將ニ良  
 好ナル秋實ヲ結ハントスルナリ是ニ於テカ未曾有ノ發明  
 ヲモナシ巧妙ナル技術ヲモ覺悟シ又ハ坐作進退ノ禮法興  
 リ一家ヨリ一族々々ヨリ一社會ニ及ホシ交際ノ情誼歡樂  
 行ハル、ニ至ルナリ北米合衆國ノ本土ハ讀者ノ知ル如ク  
 目今一部テストリクト三十八州ニヤート九領地テリトリヨリ成レリ領地ト稱スルハ州ト  
 其情態ヲ異ニシ未タ自治ノ制ヲ設ケ參政ノ權ヲ得ルコト  
 能ハス故ニ白哲人ト印度人トヲ問ハス領地ニ居住スルモ  
 ノハ中央政府ニ直隸シテ其統督ヲ仰カサルヲ得ヌ要スル  
 ニ是領地ハ人疎ニ財乏ノ概未開不文ニシテ肩ヲ聯邦諸洲  
 ニ並フルコト能ハサルヲ以テナリ然ルニ今若シ無智文盲



ナル印度人ノ巢窟ト稱セラル、いんぢあん領地ノ疆内ニ至ランニ何ソ圖ラン潛龍ヲ舞ハシ行雲ヲ停メンバカリノ美妙ナル絃誦ノ聲嚙皖トシテ矮陋ナル茅舎ノ内ヨリ傳ハリ來ラン嗚呼印度人中「びあの」ヲ奏スル人アルナリ如何シテ斯ノ如ク速ニ風雅ナル樂器ガ魯莽ナル土人ノ手ニ在ル乎實ニ驚駭セサルヲ得サルナリ人或ハ之ヲ看テ智識ノ進歩此ニ至レルヲ信セス樂器ノ如キハ偶然松林樹根ノ邊ヨリ拾ヒ來リタルカヲ想像スルナラン然レトモ更ニ眼ヲ轉シテ河岸ヲ上下シテ小舟ヲ曳ク所ノ土人ノ兒童ガ羅旬語ノ文法ニ習熟シ能ク安息日ノ讚頌歌ヲ書クヲ見レバ彼等開化ノ明徵疑フニキニアラサルナリ是野蠻ノ人民カ家屋ヲ構造スルニ因リテ開化ニ赴クノ狀態ナリ今ヤ合衆國ノ

道路ノ開通ハ文明ノ發達ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤ

大學ト國會トハ從來度外視シタル土人ニ向テ刮目注意セサル可ラサルノ時運ニ達セリ如何トナレハ彼等ハ嶮峻ヲ夷ケ荆榛ヲ披ク所ノ強壯無比ノ土工兵ノ如ク堅固鉄石ヲ欺クノ身体ヲ有セリ既ニ此天賦ノ基礎アリ之ニ加フルニ今又將ニ精神ヲ養ヒ美妙ナル風韻ノ真意ヲ理會セシトスルヲ見レバ自今印度人中白哲人種ニ凌駕スルノ偉人ヲ生シコレマテ米人カ獨占シテ以テ名譽ヲ表彰セシ桂冠ハ終ニ土人ノ掌握スルトコロトナランモ未タ容易ニ知ルヘカラサルカ故ナリ凡ソ人民退守自ラ鎖シテ外ニ求メス居然井蛙ノ如クナル時ハ永ク愚昧不文ノ域ニ沈淪シテ而カモ敢テ怪マサルモノナリ是其見聞ノ以テ心思ヲ刺衝スルコトナケレハナリ



故ニ交通ハ開化ノ先導ニシテ道路ハ封鎖ヲ解クノ關鍵トナルモノナリ今若シ彼ノ印度人ノ樵徑鳥道ヲ劈リ開キ之ヲ廣潤ニシ之ヲ平坦ニシ橋梁ヲ架設シテ以テ世界開化ノ脈管タル四通八達ノ大道ニ連續セシメンカ乃有形ト無形トヲ問ハス百般文化ノ潮流ハ滔然トシテ此一條ノ新路ニ向テ注入スヘシ是ニ於テカ仁者ハ來リテ土人ヲ救濟惠恤シ傳道師ハ來リテ宗教ヲ説キ勸メ聖人ハ來リテ鬭爭ノ惡ムヘク平和ノ好ミスヘキヲ教訓シ其他富者ハ貨財ヲ齎ラシテ土地ヲ賑ハシ商人ハ市場ヲ開設シテ貿易ヲ行ヒ彼我工藝上ノ産出物品ハ直ニ需用供給ノ道ヲ得テ沈滯鬱塞ノ憂ヲ免ルヘシ即是土人カ道路ヲ開クニ因リテ得ヘキ所ノ開化ノ進歩ナリ

土地ノ耕作ハ文明ノ發達ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤ

他ノ開化ノ一進歩ハ野蠻人民ノ習癖トシテ定住常職ナク戦争掠奪若クハ遊獵牧畜ヲ事トスルトコロノ生活法ヲ一變シ農業ニ就キ土地ヲ開墾シテ以テ永遠ノ策ヲ爲スニアリ此轉業カ開化ノ進歩ニ對シテ極メテ緊要ノ事ニ屬スルコトハすかんどちあぐいあん人種ノ祖先カ後裔ニ傳ヘテ以テ訓誡セシ著名ノ昔話ヲ以テ之ヲ證明スルニ足レリ其物語ニ曰ク

○昔々いと巨大なる怪物あり一箇の女兒をもちたりけるが或日のこと女兒廣野に出でそこへと遊び回り戯れ居けるに茲處にかゝるへんげのありとも知らず一人の農夫餘念もあらず畑を耕し居たりさて此娘が圖らずも之を見て何れをもひけんつと進みより大手をさしのべ



食指と拇指とをもて事もあげに、農夫を撮みあげ、勤牡牛をも一束に、前垂の裏にぞ、かい包みて、歸り來にける、斯くてこれを母に示し

「母上、今日しも例のそいろあるきしつるに、何やらん斯様あるもの砂の中に入らうとめき居て候、あまりに物珍しければ取り來ぬ、いがある甲蟲の類に候や、

と言へば、母はつくづく打ちあがめ、じばし言葉もあかりけるが、さて答ふるやう、

「さては、畑を開き始めけるよき吾兒よ、嗚呼われくは最早こゝを立ち退かでは叶はぬあり、其は甲蟲あんどのためひにはあらず、早くもその處に置き來れ、こぬ人問てふものこそ、げに此土に永く住居すべき主公あれ

とて遂に巨人等はいづくに影をかくしたりけむ、跡かたもあふ消え失せければ、農夫は、安堵して、いよく耕作をはけみ、次第に繁り榮へけるとぞ、

言固より妄誕不稽ニ過キスト雖モ讀者若シ考一考セハ容易ニ寓意ノ存スルトコロヲ了知スヘキナリ蓋シ人民斷蓬浮萍ノ風水ニ隨テ四方ニ轉々漂泊スルカ如ク常ニ行住不定ノ情態ニ在ルトキハ魍魎魍魎隨處ニ跋扈シテ開化ノ妨害ヲ爲スコト僅少ナラスト雖モ一タヒ土地ヲ擇テ之ニ居リ農耕ヲ勤ムルニ及テハ妖怪惡物求メスシテ遠ク遁匿シ開化ノ功ハ駸々トシテ舉ルヘキヲ謂フナリ

又他ノ著明有益ナル開化ノ一大成績ハ郵便局ノ設置下ス郵便ノ法ハ頗ル簡便ニシテ而カモ廉値ナルカ故ニ益々擴

郵便制度ハ文明ノ尺度ナリ



張洽布スルヲ得加之人間宗教ノ感情アリテ不正ノ行爲ヲ監督スルカ故ニ破滅棄擲等ノ憂アルコトナシ而シテ其利益ハ獨リ之ニ止マラス間接ニ教育普及ノ上ニ勢力ヲ添フルコト實ニ莫大ナルモノナリ見ヨ糊膠一滴ノ封緘ハ能ク書簡ヲ保護シテ千里万里ノ山海ヲ飛越スルノ力アリ天涯地角必ス指名ノ人ニ向テ到達セザルコトナシ其確實ナルコト吾人ヲシテ恰モ一砲兵大隊ノ警衛擁守スルアリテ之ヲ運ヒ來ルニアラサルカヲ疑ハシム郵便法ノ整頓此ノ如キニ於テハ余ハ之ヲ以テ開明ヲ度ルトコロノ好標準トナスナリ

人各能アリ不能アリ短所アリ長所アリ一身ニシテ百藝ニ達スルコト能ハサルモノハ生來自然ノ性質之ヲシテ然ラ

分業ノ法ヨリ生  
スル結果如何

シムルナリ然レトモ古代人民離群索居シテ鄰交ノ道未ダ開ケサルノ時ニアリテハ人々互ニ勞力ヲ分ツコト能ハス衣食住ノ事皆自ラ之ヲ爲サ、ルヲ得ス敢テ其長所ト短所トヲ問フニ暇アラサルナリ然リ而シテ世漸ク進ミ農工商ノ業相分離シ人世百般ノ技術轉々増加スルトキハ漸々ニ人々ノ生活ヲ營ムヤ各己カ才能ノ適スルトコロニ從テ職業ヲ撰擇スルニ自由ナル餘地ヲ生スルニ至ルナリ是ニ於テ分業ノ法十分ニ行ハレ一國ヲ舉ケテ悉ク有用且幸福ナル生産者ヲ充滿セシムルモノナリ夫レ職業ノ獨立此ノ如クナルトキハ技藝專攻ヲ經テ產物精好トナリ產物精好トナレハ人ノ嗜欲ヲ誘引シテ需用ヲ増加シ需用増加シテ而シテ販路窒塞スルコトナケレハ生産者ハ勞力ノ報酬ヲ受



何 國政施設ノ法如

クルコト必然ニシテ且迅速ナリ凡ソ人自ラ勞シテ自ラ功ヲ収メハ生活ノ幸福之ニ過クルモノナカルヘシ果シテ然ラハ勞力者此際何ニ由リテ鄙吝ノ念ヲ生スルコトヲ容サシヤ乃チ報酬必然ナルトコロノ職業ハ勞力者自身ノ爲ニ警察スル所ノ巡查トナリ教訓スル所ノ十誡トナリ以テ善事ヲ勸メ惡念ヲ防クニ足ルナリ博士ぢよんそん氏曰ク「人ハ適當ナル金銭ヲ得テ勞作スルヨリ潔白無玷ナルハナシ」ト蓋シ至言人生ノ眞情ヲ穿テ得タルモノト謂フヘシ

各邦一國ノ内政ナルモノハ通常人種言語宗教土地等其國ニ具有セル自然特殊ノ性質ニ應ジテ趣向ヲ異ニセザルベカラザルハ固ヨリ言ヲ待タザル所ナリ唯何レノ國ヲ限ラズ其一國政府ヲ巧ニ組織整理セシト欲セバ之ガ主治者タ

ラソモノハ必ズ智識ト實力アルコトヲ要スルナリ主治者ニシテ智識アリ實力アリ一國自然ノ性質ヲ詳悉シテ以テ施政ノ法ヲ計策スルトキハ其善治ノ結果ハ吾人ヲシテ博士とらますぶらをん氏が描出シタル想像ヲ回思シテ轉々愉快ヲ感ゼシムルモノアリ其言ニ曰ク「余ハ強項頑冥ニシテ統撫シ難キ所ノ群衆ガ能ク渠レ自カラ克ツコト能ハザルトコロノ私情ヲ抑制シ知ラズ識ラズ一國政府ノ權力法律ニ服從シテ敢テ違背スルコトナキヲ見ル而シテ司法警察ノ嚴正精細ナルコト國事犯ハ措テ言ハス尋常單純ナル一箇人ノ犯罪ハ必ズ之ヲ求刑處分シテ苟モ徒ニ許シ假スコトアラズ縱令犯罪人跡ヲ暗マシ半地球ノ遠キニ奔竄スルトモ之ヲ追跡逮捕シテ刑罰ニ處スル亦易々タルノミ」ト



婦人ノ感化力如何ハ文明ノ尺度ナリ

是レ善美ナル政治ノ因リテ致ス所ナリ  
凡邦國開化ノ進歩ヲ知ラント欲セハ婦人ノ位置ヲ觀ルヨ  
リ善キモノハアラス如何トナレハ一國ノ社交上又ハ法律  
上ニ於テ婦人カ能ク正當ナル地位ヲ得ル所以ノモノハ即  
文明ヲ表彰スルトコロノ里程標ナレハナリ富貴ナルモノ  
ハ言ヲ待タス貧賤ニシテ勤勞スルトコロノ人ト雖モ苟ク  
モ普通ノ健全ナル心思ヲ有セバ甚容易ニ人性情愛ノ倫理  
ヲ會得シ以テ之ヲ遵守スルコトヲ好マサルハナカルヘシ  
即男女兩性ノ關係ヲシテ相互正當ナル綱紀ヲ保持セシメ  
ソコトヲ希望スルナラン果シテ兩性各當サニ其立ツヘキ  
所ニ立テ而シテ嚴正ナル道德ノ以テ之ヲ扶植スルアルト  
キハ婦人ノ巧妙ナル神術否テ閨秀ノ内助ハ能ク其鹵莽扑

印刷術ノ進歩如何ハ文明ノ尺度ナリ

野ナル民人ヲ涵養感化シテ文雅ナラシメ高尚ナラシメ義  
俠ナラシメ禮義交際ニ嫻ハシメ學識才智ヲ長セシムルニ  
餘アルモノナリ是故ニ余ハ以爲ヘラク文明ヲ測ルトコロ  
ハ適當ナル尺度ハ善良ナル婦女ノ感化力ヲ觀察スルニ若  
クモノアラスト  
又人民教育ノ進歩ヲ徵スル所ノ他ノ尺度ト做スヘキモノ  
ハ學問ノ普及即古來久ク種屬ノ等級トシテ現存シ嚴然上  
下貴賤ノ間ヲ分畫シタリケル所ノ舊堤防ヲ超越破壞シテ  
漫流汎濫スルトコロノ智識ノ潮水ニ在リ彼廉値至便ナル  
印刷ノ効力ハ則新聞配達夫ヲシテ能ク其提囊中ニ大學校  
ヲ齎ラサシムルニアラスヤ貧人ハ高等ノ學校ニ入ル能ハ  
サルヘシ然レトモ新聞ノ作用ハ隨時隨所彼等貧人ノ戸前



汽船ハ技術ノ源  
品、文明ノ縮寫  
ナリ

ニ於テ其需用ニ應スルニアラスヤ所謂新聞紙ハ粗笨ナル  
ニモセヨ其紙上ニ於テ能ク諸科學ノ斷篇、高大卓絶ナル思  
想ノ片々、美妙ナル詩歌ノ零墨等ヲ記載セルヲ散見シ得ヘ  
キカ故ニ吾人ハ誰シモ之ヲ通讀一過スルノ後ニアラサレ  
ハ敢テ猥ニ火中ニ投スルコトヲ爲サ、ルナリ  
今又茲ニ最近發明ノ功ヲ集メ完全備具セル機關器械ノ裝  
設ヲ爲シタル一箇ノ船舶アリ吾人斯ノ如キ船舶ヲ觀ルト  
キハ其之ヲ製造シタル人民ノ工藝ノ伎倆ハ如何ナルモノ  
ナルカヲ察スルコトヲ得ルナリ即是一國人民カ有スル百  
般技術ノ進歩ヲ代表スル所ノ好標品ナリト稱スヘシ看ヨ  
其船舶ハ羅針盤ト海圖トヲ案シテ舵ノ當サニ向フヘキト  
コロヲ定ムルコアラズヤ太陰ノ觀察ニヨリ若クハ時辰表

ノ指示ニ依リテ經線ヲ測度スルニアラスヤ蒸氣ノ力ヲ使  
役シテ直突駛走スルニアラスヤ而シテ遙遠万里故國ノ山  
河ヲ辭シテ淼漫タル大洋ニ航シ鞆鞆タル怒濤忽然トシテ  
重峯疊巒ヲ一時ニ倒シ去リ倒シ來ル其ノ杳溟漠々ノ中ニ  
アリテ

「くろがね裝ふ心臓の、脈うつ動氣たえまなく、雨風つ  
よきあらしにも、逆浪わけて進みゆく」

トコロノモノハ實ニ此汽船ニアラスヤ嗚呼實ニ微弱ナル  
一箇ノ動物否然レトモ實ニ絶大ナル勢力一人間ニ依リ  
テ管理セラレタル所ノ此機關ノ奇異巧妙ナル作用ハ永劫  
無盡ノ寶庫ニシテ幾タヒ之ヲ用フルトモ何人カ之ヲ使フ  
トモ敢テ消磨スルコトヲ得ス滅殺スルコトヲ得サルモノ



奇警ナル謎題、  
鹹水ヨリ清水ヲ  
得ルコト

ナリ然ラハ則チ汽船ハ諸工藝ノ最要文明ノ縮寫ナリト謂  
フヘキモノナリ  
余嘗テ汽船ニ搭シ海ニ航シタル時船中ニ於テ深ク余カ注  
意ヲ惹キ起シ半ク腦底ノ記憶ニ遺レル最感スヘキ一事ア  
リ即腐ヲ化シテ新ト爲スノ術是ナリ何ソヤ一機關ノ極美  
巧妙ナル其恒久不變ニシテ間歇休息ナキ運動ニ依リ凡一  
時間二百「がるろん」即我四石一斗六升九合七勺五才ニ當ル  
ノ比例ヲ以テ常ニ彼ノ鹹苦ナル海水ヨリ清甘ナル淡水ヲ  
生シテ已マス以テ船中一切ノ需用ヲ充タスモノアルコト  
ハ讀者ノ既ニ能ク目撃知了スルトコロナルヘシ知ラス讀  
者ハ之ヲ看テ何等ノ感覺ヲカ起ス蓋シ是甚貴重ニシテ趣  
味アル一箇ノ謎題余ノ聞カント欲スル所ナリ

謎題ノ解釋、廢  
物利用

讀者ハ試ニ見スヤ綱繆繁複ヲ極メタル所ノ器械機關ノ各  
部分ニ一々行届キテ毫厘ノ遺算ナキ技術家ノ精巧緻密ナ  
ル伎倆ニ就テ……又自營自治救助ヲモ仰カス干涉ヲモ受  
ケサル所ノ特立獨行ノ人民ニ就テ……又彼ノ俗間通常棄  
テ、顧ミサル黒烟中ノ炭分ヲ空ク放散セス更ニ之ヲ燃燒  
シテ熱ヲ取り得ヘカラシムル所ノ機關ヲ備ヘタル暖爐ノ  
煙筒ニ就テ……又生産ハ消費ヲ償フテ純益餘裕アル田園  
ニ就テ……又維持ヲ立ツルニ他カヲ借ラス自ラ歲入ヲ生  
セサルヲ得サルトコロノ監獄署ニ就テ……更ニ一步ヲ進  
メテハ此四人ノ半舎ヲ以テ直ニ一ノ感化院トナシ恰モ彼  
ノ汽船ニ於テ鹹水ヨリ清水ヲ得ルカ如ク良心ヲ失ヒ邪道  
ニ迷ヒタル所ノ慾ムヘキ惡漢ヲ陶冶教化シテ青天白日俯



仰天地ニ耻チサル正人君子ヲ出ス一種ノ學校ニ就テ……  
 讀者若シ一番ノ考察ヲ辭セズンバ謎題ノ寓意ニ於テ春水  
 ノ東風ヲ迎ヘテ釋然タルカ如キモノアラン蓋シ總テ此等  
 ノ事例ハ皆反對ヲ連合シ惡性ヲ善用スルノ法ニシテ社會  
 開化ノ程度高キニ達スルニアラスンハ能ハサルモノナリ  
 然ラハ則チカハル處ヲ改メテ新トナシ廢ヲ轉シテ利トナ  
 スノ傾向ハ高度ニ上レル開明ノ一指針ナリト稱スヘシ  
 夫レ開化ハ高等複雑ナル身體組織ノ致ス所ノ結果ト謂ハ  
 サルヘカラス凡下等動物ヨリ高等動物ニ至ルニ從テ組織  
 ノ疎ヨリ密ニ單一ヨリ複雑ニ趣クハ一般動物世界ノ通則  
 ナリ彼ノ透迤蜿蜒トシテ叢間ヲ爬走スル蛇屬ノ如キハ身  
 體ノ機關總テ一條ノ圓洞内ニ閉塞壅包セラレテ一手一足

文明ハ複雑ナル  
 機關ノ結果ナリ

一鱗一羽ノ外面ニ支出スルモノマニアラズ然ルニ進テ鳥  
 類獸類ニ至レハ体内ノ機關始テ包束ヲ免ル、ヲ得四肢ノ  
 輕捷ナル聊以テ踊躍嬉戲ヲ爲スニ足レリ然リ而シテ生物  
 ノ最高ニ位スル吾人人類ニ至リテハ身體ノ諸機關總テ皆  
 不羈自在ニシテ愉快多福ナル舉動ヲ以テ充滿セリ單ニ之  
 ノミナラス此身體有形的ノ束縛ヲ脱却スルト與ニ吾人ハ  
 更ニ精神無形的ニ於テ無上ノ利益ヲ得ルナリ即吾人カ名  
 ケテ以テ道理ト做ストコロノ自主獨裁權ノ赫々タル光輝  
 ヲ受クルコトヲ得又其道理ノ規矩ヲ步趨スルヲ以テノ故  
 ニ真正ナル自由ノ德ヲ享樂スルモノナリ  
 又四時ノ氣候ナルモノハ此人類文華ノ發達ト關係ヲ有シ  
 大ナル影響ヲ及ホスモノナリ夫レ最高ノ文明ハ決シテ熱

氣候ハ文明ノ發  
 達ニ如何ナル影  
 響ヲ及ホスヤ



帶ヲ愛シス。六花ノ降ルトコロハ何所ニモアレ。通常人民ノ  
 自由アリ。椰子樹ノ生長スルトコロハ何所ニモアレ。動物系  
 統ハ高等ノ性質ヲ失ヒ。懶惰飽饜ナルモノナリ。即熱帶地方  
 ニ生息スルトコロノ人種ハ体慾ヲ肆ニシテ精神的ノ快樂  
 ヲ好マズ。殘忍非道ニシテ社交ノ禮節ヲ知ラス。唯飽食逸居  
 境界ニ甘シテ自ラ興ルコト能ハサルモノナリ。要スルニ  
 赤道地方ハ天然物ノ以テ衣食住ニ資スルモノ多ク人々必  
 スシモ体ヲ役シ心ヲ勞スルヲ須ヒス。体ヲ役スルコトナケ  
 レハ淫逸不善ニ流レ心ヲ勞スルコトナケレハ機智ヲ生シ  
 工夫ヲ出スコトナシ。是其最高ノ文明ニ達スル能ハサル所  
 以ナリ。然リト雖モ此氣候ノ天秤ナルモノハ一定不變ノ標  
 準トシテ以テ開化ノ程度ヲ量ル能ハサルコト又之アリ。如

何トナレハ高等ノ道德感情ハ氣候ノ不利益ナル影  
 響ヲ克制スルコトアレハナリ。看ヨ吾人カ今日人類ノ高大  
 ナル儀表トシテ貴重有益ナル典型ヲ得ルトコロノモノハ  
 中ニハ實ニ赤道地方ヨリ由來スルモノアルナリ。何ソヤ曰  
 ク埃及人印度人亞刺比亞人ノ智力ニ依リテ成シ遂ゲラレ  
 タル古代ノ文明即是ナリ。  
 以上列記シ來レル所ノ古今人類ガ成遂ゲタル多數ノ功績  
 ハ一事兩般ノ觀ヲ吾人ニ呈シ一方ニ向テハ開化ノ程度ヲ  
 計ルトコロノ尺度トナリ一方ニ對シテハ開化ノ状態ヲ顯ス  
 モノトナル者ナリ。既ニ陳ベタル如ク温暖中和ノ氣候ハ文  
 明ノ進歩ニ一ノ緊要有効ナル感應力ヲ有スル者ナリ。勿論  
 あいすらんぞ氷州ノ如キ寒帶地方ニ於テモ紅日灼然タル



道徳ハ文明ノ發  
達ニ缺クヘカラ  
サルモノナリ

熱帶地方ニ於テモ時アリテカ文學哲學及ビ技術ノ發芽暢  
育スルコトアルヲ以テ單ニ温帶ノ氣候ガ開化ノ進捗ニ全  
然必須ニシテ缺クベカラザルモノナリトハ限ラレズト雖  
モ其與リテ大ニカヲ致スコトハ争フベカラザルナリ然リ  
氣候ハ一箇ノ感應力ナリ然リト雖モ未ダ必須的ノモノト  
謂フベカラズ然ルニ爰ニ一事情ノ吾人々類ノ社會的教育  
即進化ニ必ズ伴ハザルベカラザルモノアリ何ツヤ曰ク道  
徳是ナリ凡ソ古往今來洋ノ東西ヲ問ハス深厚ナル道徳行  
ハル、ニアラスシテ而シテ能ク高度ノ文明ニ達シ得タル  
コトアリヤ國家ノ隆興スルトコロ文化ノ煥發スルトコロ  
縱令道徳ナル名ヲ以テ稱セラレスト雖トモ必スヤ道徳ノ  
實アリテ存セサルコトナキ也或ヒハ中古時代ノ騎士制

社會ノ進化ハ字  
街ノ一大法則ニ

度ニ在リテハ榮譽ナル名ニヨリテ表ハレ弱ヲ扶ケ強ヲ拉  
ク生命捨ツヘシ眉目損スヘカラスノ任俠トナリ或ハすば  
る及羅馬ノ共和政府ニ在リテハ愛國ナル名ニヨリテ表  
ハレ公命ヲ重シ私事ヲ輕スルコト泰山ノ鴻毛ニ於ケル如  
ク外ニハ仇ヲ服シ内ニハ權ヲ誅スルノ義勇トナリ或ハ宗  
教々門ノ熱心ナル信仰トナリテハ一切萬般ノ妙理巧徳ヲ  
以テ自家ノ經典教條ニ歸スルコト猶太人ノ神秘學ニ於ケ  
ルカ如ク或ハ朋友同志ノ團結心トナリテハ緩急相救ヒ起  
仆互ニ頼ルコト英國塙手匠ノ共助會ニ於ケルカ如ク其名  
ハ時ト處トニヨリ種々ニ異ナリト雖モ皆是道徳ヨリ淵源  
セルモノニアラスシテ豈他アラシヤ  
故ニ高ク文明ノ階ニ達スヘキ運命ヲ有スル所ノ一國社會



一致セサルヘカラス

ノ進化ハ道德ニ依リテ指導セラレサルヘカラス即其進化  
 スヘキ方向ハ皇天上帝ノ鳳駕ノ轍ニ沿フテ行カサルヘカ  
 ラス宇宙間ニ流行スル一大法則ニ一致セサルヘカラス而  
 シテ万般ノ目的ニ於テ普通遍有ナラサルヘカラスナリ  
 然ラハ則チ道德トハ何ノ義ソヤ蓋シ道德トハ吾人ノ舉動  
 ニ於テ普通抽象的ノ目的ヲ尊重スルコトヲ謂フモノニシ  
 テ獨逸哲學ノ大家カント氏カ道德ノ行爲ニ就テ下シタル  
 定義コソ眞箇ニ格言ナレ曰ク汝ハ汝ノ意思ノ直接動機カ  
 人類全般ノ規律ニ適センコトヲ期シテ以テ動作セサルヘ  
 カラスト言所ハ人々ノ行爲ヲ左右指定スルトコロノ動機  
 ハ直ニ人類全般ノ規律ニ契合スルニアラサレハ之ヲ稱シ  
 テ以テ道德上ノ善行ト謂フヘカラス善行ノ動機ハ宇宙間

カントと道德ノ定義

人間ノ進歩ハ人間以上ノ勢力ニ倚賴セサルヘカラス

ノ絶對的の道律所謂無上大法ヲ尊崇敬虔スルノ心ニ出テサ  
 ルヘカラスト謂フモノ即是カント氏ノ論理說ナリ  
 然ラハ則チ開化ノ進歩ハ道德即覆戴万象ノ間ヲ統制スル  
 トコロノ一ノ法則ニ順從依賴セサルヘカラスヤ明ナル  
 一ノ事ノ何タルヲ論セス吾人々類ノ善ト稱スルトコロ  
 ハモノハ人間以上ノ勢力即人類万物ヨリモ一層高位ニ在  
 リ宇宙間ニ流行スルトコロノ勢力ニ根底スルモノナリ此  
 法則タルヤ上ハ日月星辰ノ大ヲ包ミ下ハ子々蟬蟬ノ微ヲ  
 該チテ決シテ相違スルコトナシ之ヲ以テ吾人カ日用諸般  
 ノ手藝工作ニ於ケル其能ク強力ニシテ而モ成功スル所以  
 ノモノハ偏ニ水火風土ノ諸元素ヨリ冥々不知ノ際ニ大ニ  
 ル補助ヲ借ルニ因ルト謂ハサルヘカラス即天地自然ノ勢



カヲ應用スルヲ以テナリ讀者ハ彼ノ梯子ノ上ニ在リテ工  
 作スルトコロノ木匠ノ仰テ棟梁ニ對シ大斧ヲ揮フテ斫削  
 又斫削流汗努力スルノ狀ヲ見スヤ嗚呼如何ニ其技ノ拙劣  
 ナルツ嗚呼否如何ニ不利益ナル位置ニ立テ彼ハ工作セ  
 サルヲ得サルツ勞多クシテ功少ク畢竟是木匠ノ巧ナラサ  
 ルニアラス場所之ヲシテ然ラシムルナリ若シ今木匠ヲシ  
 テ地上ニ來リ脚下ニ材木ヲ横ヘシメン乎形狀一變則チ其  
 双腕ハ先ノ弱キカ如クナラス旋轉輕快力ヲ費サスシテ巨  
 鉞自在ナラサルハナシ抑是レ如何ナル理ソヤ渠木匠ハ自  
 ラ知ラサルモ引力彼ヲ助ケテ斧ヲ牽ケハナリ反言スレハ  
 地球自身カ木匠ノ爲ニ材木ヲ削ルト謂ハサルヘカラス讀  
 者又農家ノ鋸工ヲ雇使スルヲ見スヤ鋸工ノ動モスレハ悖辰

從來通信ノ不便

ニシテ命ヲ守ラス怠慢時ヲ消シ忍耐ノ力ニ乏シキコトハ  
 從來備主ノ屢苦ムトコロナリキ然ルニ一旦鋸削水車ヲ瀑  
 布ノ側ニ裝設スルノ法ヲ考案スルニ及テハ復前日ノ苦心  
 ヲ要セス而シテ費ヲ省キ工ヲ速ナラシムルニ至レリ如何  
 トナレハ滾々タル河水ハ瀧流晝夜ヲ舍カヌ車輪ヲ回轉シ  
 テ曾テ倦厭スルコトナク疲勞スルコトナケレハナリ且其  
 性質ノ善良從順ナル唯命是從フノミニシテ決シテ主人ニ  
 對シテ故障ヲ企テ異見ヲ露々スルコトアラサレハナリ蓋  
 シ善良勤勉ノ鋸工ナキニアラスト雖モ如何ツ之ニ過クル  
 コトアラソヤ  
 從來吾人カ消息ヲ通スルノ法ハ如何ナリシゾ鯉雁ノ故事  
 ハ措テ論セス書簡ヲ飛脚ニ托シテ送ルノ制ヲ以テ無上ノ



便利トシタリ然リト雖モ此制モ今日ニ至リテハ未タ備ハ  
 ラザル所アリト謂ハザルベカラズ如何トナレバ彼飛脚ナ  
 ルモノハ晝夜兼程急驅スルモノナレバ快キハ則快シト雖  
 モ彼乘風駕雲ノ仙術アルニアラズ頼ムトコロハ齊シク是  
 雙鞋ニ過ギズ体力限アリ十分ノ速度ヲ以テ十分遠隔ノ地  
 ニ行クコト能ハザルベケレバナリ馬車ヲ用フルトセンカ  
 或時ハ其車ノ破壊スルコトモアラソ或時ハ其馬ノ顛跌ス  
 ルコトモアラソ沿道之ヲ繼カント欲スルモ隨時自由ヲ得  
 ザルコト亦之アラソ加旃春期融雪ニ際シテハ道路泥濘脛  
 ヲ没シ輪ヲ埋ムルノ憂アリ夏天赫日ノ時ハ炎熱蒸々堪ヘ  
 難キノ苦惱アリ而シテ嚴冬極寒ノ候ニ及テハ烈風飛雪ノ  
 慘虐ナル駿馬ノ驥足モ踳踖逡巡シテ前ム能ハザルナリ其

電氣ノ應用

不便實ニ幾何グヤ然リ然レドモ讀者或ハ疑テ謂ハン吾人  
 通信ノ法飛脚ノ制ニシテ未ダ可ナラズトセバ何者カ果シ  
 テ最善美ナリトスルゾ余將ニ對ヘテ言ハントス自然力ナ  
 ル哉々々々々ト  
 所謂自然力トハ抑何ノ謂ソヤ看ヨ吾人ハ吾人カ呼吸スル  
 トコロノ空氣ト吾人ヲ戴スルトコロノ大地トカ到ル處電  
 氣ヲ以テ充滿セルヲ知レリ電氣ハ常ニ吾人ノ要スル方向  
 ニ流通セリ恰モ吾人ノ通信セントスル所ニハ未タ曾テ電  
 氣ノ行カサルトコロ無キナリ然ラハ則チ渠電氣ハ吾人ノ  
 爲ニ能ク通信ノ使命ヲ帶フルコトヲ肯スヘキヤ否ヤ蓋シ  
 電氣ハ閑散無事ノモノ他ニ用務アルモノニアラス使命ヲ  
 受ケサレハトテ爲ニ其安逸ヲ喜フコトナク之ヲ受クレハ



トテ爲ニ其煩擾ヲ厭フコトナシ行藏用捨ハ唯吾人ノ欲ス  
 ルトコロノ儘所謂之ヲ取ルモ禁スルコトナク之ヲ用フル  
 モ竭キサル所ノモノナリ好シ以テ通信使ト爲サンカ彼將  
 ニ欣然首肯シテ瞬間ニ之ヲ辨セントス然レトモ獨リ一條  
 ノ疑念吾人ヲシテ躊躇セシムルトコロノ異議ヲ發スルヲ  
 奈何セン渠電氣ハ提囊ヲ有スルカ隱袋ヲ有スルカ又手ア  
 リヤ口アリヤ是等ノモノハ書簡ヲ運フヘキ所ノ要件彼果  
 シテ之ヲ具有スル乎其レ然リ豈其レ然ランヤ吾人ハ幾多  
 ノ思考ヲ費シ幾多ノ經驗ヲ重テ始メテ爰ニ其性質ニ適應  
 シタル整理ヲ爲スコトヲ得タリ即一箇ノ機械ヲ發明シ彼  
 ノ無形ノ隱袋——針ト糸トヲ以テ縫合シタルニハアラサ  
 ル所ノ一種不思議ノ囊裡ニ運ヒ得ヘカラシムル爲ニ隨テ

潮水ノ應用

亦目以テ見ルヘカラサル極メテ嚴密ナル体裁ニ書簡ヲ褶  
 折封成スルノ新法ヲ裝置シタリ所謂彼ノもゝるす氏ノ發  
 明ニ成リタル電信機是ナリ是ニ於テ吾人ノ消息ハ東西万  
 里往復轉瞬彼我ニ通シテ誤ラサルコト神爲魔術ノ如キナ  
 リ  
 余ハ前ニ瀑端ニ於ケル鋸割水車ノ便利ナルコトヲ記シタ  
 ルカ他ニ尙一層其精巧妙機ヲ贊嘆激賞シテ措ク能ハサル  
 トコロノモノアリ彼ノ海岸ニ於テ設置シタル所ノ水車カ  
 潮水ノ力ヲ利用シテ車輪ヲ推動回轉スル所ノ巧思ノ如キ  
 ハ蓋シ最驚クヘキナリ惟フニ讀者ハ知ルナラン海潮ノ干  
 満ハ何ニ由リテ生スルカ海水ハ日ト月トノ引力ニ依リテ  
 進退スルモノニシテ殊ニ專ラ太陰ノ引力ニ關係スルコト



ハ余カ喋々ヲ待タサル所ナラン然ラハ則チ讀者ヨ試ニ余ト共ニ彼ノ潮力水車ニ就テ考察ヲ下セヨ余ハ以爲ヘラシ此水車ハ備者ト一般太陰ヲ使役スルモノナリト如何トナレハ車輪ヲ動スモノハ海水ニシテ海水ヲ動スモノハ太陰ナレハナリ嗚呼下界ニ栖息スルトコロノ人間カ蒼空ニ懸ル所ノ月輪ノ助勢ヲ頼ミ來リ或ハ以テ穀物ヲ碾磨シ或ハ以テ糝糠ヲ簸揚シ或ハ以テ用水ヲ噴出シ或ハ以テ木材ヲ鋸斷シ或ハ以テ石材ヲ斫鑿シ或ハ以テ鐵鑛ヲ卷展スルトハ實ニ人間ノ智巧モ亦至レル哉

吾人カ斯ノ如ク平生万般ノ工藝事業ニ於テ地上ヲ走ル所ノ馬車ト空間ヲ運ル所ノ行星ト同軌一轍相鈎連シテ進ムトコロノ奇觀ヲ現セシメ又宇宙森羅ノ天体其物ヲ雇フテ

造化ノ無盡藏ニ  
智識ノ倫

以テ勞作セシメ吾人ノ援助ニ供スル所以ノモノハ抑人間智識ノ測ルヘカラサル研究進歩ノ結果ナリトス元來人類ハ微弱ナル一小動物堅甲利爪アルニアラス而シテ能ク大塊ノ上ヲ横行濶歩シ強大無比ナル所以ノモノハ唯智識ノ關鍵ヲ以テ造化ノ秘藏ヲ開キ諸元素ノ勢力ヲ假借應用スルニ依ルナリサレハ蒸氣力ナリ重力ナリ濕電氣ナリ太陽ノ光線ナリ磁氣力ナリ風ナリ火ナリ總テ吾人ノ周圍ニ存スル所ノ無盡ノ諸勢力ハ日々吾人ノ爲ニ勤役勞動シテ吾人ノ幸福ヲ充シ而シテ曾テ吾人ヲシテ一物ヲモ消耗セシムルコトナキナリ

世人徒ニ謂ヘラシ天文學ハ蒼々タル太虛ノ學問畢竟吾人日常ノ事ニ用ナシト何ソ知ラン天文學ハ吾人ノ寸時モ廢

天外ノ加勢者



スヘカヲサル所ノ工作技藝ニ絶大有功ナル加勢者ノ幫助ヲ天上ヨリ地下ニ招致スルノ方法ヲ講究スルモノナラントハ世人宜ク天外河漢ノ觀ヲ爲スヘカヲサルナリ晴夜眼ヲ放チテ彼蒼ニ對セヨ澄空一碧渺々トシテ其際涯ヲ想像スルヲ得ス無數ノ星斗燦爛トシテ其間ニ散點羅布スルヲ看ン試ニ思ヘ豆粒的ノ地球ノ上ニ立ツトコロノ吾人カ如何シテ以テ此恢廓無邊ナル宇宙ノ間ニ測量ノ規矩準繩ヲ施スコトヲ得ヘキカ抑天文上ノ測定ヲ爲サントスルコトハ先ツ適當ナル基本ノ一線ヲ見出サントコトヲ必要トスルナリ例ヘハ一行星ノ位置ヲ定メントスルニハ視差パララックス異リタル點ヨリ觀望スルニ從テ生スルトコロノ天体ノ位置ノ變動ヲイフヲ見サレハ能ハサルカ如シ然ルニ茲ニ天文學者ハ

技藝ノ目的ハ自然力ノ應用ニ在リ

至極簡單ナル方法ニヨリテ之ヲ算出シタリ即其目的トスル一行星ニ就テ先一回ノ觀察ヲ爲シ以テ其位置ヲ認メタル後更ニ六ヶ月ノ經過ヲ待テ同一ノ行星ニ就テ二回ノ觀察ヲ遂ケ以テ我地球ノ軌道ノ直徑ヲ得ンコトヲ勤メタルナリ讀者ノ知ル如ク地球ハ一年ニシテ其軌道ヲ一周スル者ナレハ曆程半歳ヲ隔テタル所ノ第一觀察點ト第二觀察點トノ距離ハ即地球軌道ノ直徑ニ相當セサルヘカラス斯クシテ其徑長大凡二億万英里アルコトヲ發見スルヲ得タリ嗚呼此一直線コソ宇宙ノ星辰ヲ測定スル三角形ニ於テ貴重スヘキ基本トナルモノナレ

ホレハ吾人百般ノ技藝ハ此自然力應用ノ特益ヲ得ンコトヲ目的トシテ機巧ヲ競フモノナリ吾人ハ彼ノ高遠ナル穹



隆ニ麗クトコロノ星辰ノ協力ヲ得ント欲シテ直ニ之ヲ掌  
 裡ニ致サンコトハ固ヨリ望ムヘカラス然レトモ天体ノ運  
 行スル所ノ方向ニ從ヒ工事ヲ撰擇シ適當ナル機關ヲ施設  
 シタランニハ則天体ハ忽チ贊成シテ事業ヲ擔當シ決シテ  
 辭退スルコトナカルヘシ蓋シ天体ナル者ハ自己ノ轉進ス  
 ヘキ軌道ノ以外ニ決シテ蹈ミ出ツルコトナキヲ以テ確然  
 一定ノ法則ナリトス之ニ反シ人類ハ敏捷多忙多思ナル一  
 小有機体ニシテ好テ彼處ニ迷走シ此處ニ錯行スル等ノコ  
 トアレトモ彼等星辰ノ前ニハ豫設セラレタル一定ノ線路  
 ノ在ルアリ以テ苟クモ紛乱ヲ生スルコトアラス之ヲ以テ  
 太陽太陰各其由ルヘキ所ノ軌ニ由リテ以テ違ハス空氣ノ  
 泛々タル泡球塵埃ノ飄飄タル分子ニ至ルマテ亦其撰ヲ誤

社會的及政治的  
運動ノ助力如何

ルコトナキナリ

吾人ノ工業ガ諸元素ノ勢力ヲ適用シテ始テ隆盛ナルヲ得  
 ルカ如ク社會上及政治上千種万般ノ運動モ亦原理大道ニ  
 依頼セサルヘカラス總テ何事ニモアレ卓越雄偉ナル一事  
 業ヲ成シ遂ケント欲セハ吾人ノ意思ヲ人類万象普通一般  
 ノ目的ニ對シテ發作セサルヘカラサルナリ四面重圍ノ裏  
 ニ囚ハレタル羸弱微公ノ一箇ノ動物即人類ハ先哲だに  
 一  
 氏ノ書ニ言ヘタルカ如ク

「ありし我身のその上に、我とわか身をたかめねは、人  
 てふものはいかばかり、あわれ甲斐なきものあるぞ、  
 本來人類ノ万物ニ於ケル其外形甚優ルトコロアリト謂フ  
 ヘカラス然レトモ人類ハ意思テフ精神作用ヲ有セリサレ



ハ、恰、思、想、ヲ、動、カ、ト、シ、テ、運、轉、ス、ル、所、ノ、機、關、車、ノ、如、シ、之、ニ、因、  
 リ、テ、吾、人、今、原、理、大、道、ノ、規、矩、ニ、從、ヒ、意、思、ヲ、發、作、ス、ル、ト、キ、ハ、  
 則、最、大、無、上、ノ、勢、力、ヲ、有、ス、ル、モ、ト、ナ、ル、ナ、リ、地、中、海、ノ、咽、喉、  
 タ、ル、ジ、ぶ、ら、る、た、る、ノ、海、門、ハ、天、險、自、然、世、界、無、二、ノ、強、堡、ト、稱、  
 セ、ラ、ル、然、レ、ト、モ、思、想、ノ、鏡、壁、ハ、じ、ぶ、ら、る、た、る、ノ、堅、固、ナ、ル、ヨ、  
 リ、モ、堅、固、ニ、シ、テ、毫、厘、モ、侵、掠、移、動、ス、ル、コ、ト、ヲ、得、サ、ル、モ、ノ、ナ、  
 リ、古、今、聖、賢、英、傑、ノ、人、士、カ、大、業、ヲ、成、シ、鴻、績、ヲ、垂、ル、所、以、ノ、  
 モ、ノ、ハ、畢、竟、此、至、剛、至、大、ナ、ル、思、想、ノ、勢、力、ヲ、原、理、大、道、ニ、根、シ、  
 テ、運、用、ス、ル、カ、故、耳、讀、者、史、ヲ、緝、テ、く、ろ、む、う、え、る、ノ、戰、争、ニ、鑑、  
 ミ、ヨ、英、國、有、名、ノ、内、亂、ち、や、い、る、す、一、世、ト、長、期、議、院、ト、ノ、軋、轢、  
 ヨ、リ、生、セ、ル、君、民、七、年、間、紀、元、一、千、六、百、四、十、二、年、ヨ、リ、同、八、年、  
 ニ、至、ル、ノ、戰、争、ニ、於、テ、王、黨、終、ニ、利、ヲ、得、ス、す、ち、の、あ、る、と、家、世

襲ノ所謂神聖天授ノ王權モ一朝地ニ墜テ泥ニ塗レ麗體楚  
 囚ノ悲境ニ陥リタル所以ノモノハ果シテ何ニ由ルカ抑ク  
 ろむうえる將軍ノ驚クヘキ軍隊ノ編制ト習練トニヨラス  
 ノハアラス當時民權黨ハ短髮清楚所謂圓顛テフ嘲罵ノ譁  
 號ヲ以テ稱セラレタルカ如クピウリたん宗ノ信者ヲ以  
 テ組織シピウリたん宗ノ精神ヲ以テ團結シタリ故ニ彼  
 等ハ左手ニ聖經ヲ捧ゲ右手ニ干戈ヲ執レルナリ其退テ營  
 内ニ屯スルヤ靜心祈禱ノ禮拜ヲ修メ其陣ニ臨ミ敵ニ當ル  
 ヤ聖詩ヲ頌シツ、利劍ヲ振ヒ挺進突撃畏ルヘキヲ知ラス  
 是其驕慢淫逸ナル王黨ノ企テ及フ能ハサルトコロ勝敗ノ  
 決以テ見ルヘキナリ然カレハ爾時或賢人ノ謂ヘケラク「最  
 善ノ勇氣ハ全智全能ノ造物者ヨリ發輝スル所ノ光線ニ外



ナラストイヘルピ。りたん宗ノ趣旨ハ實ニ絶大ナル教訓ノ結果ヲ顯ハシタル者哉ト其レ實ニ然ラスヤ是ニ因リテ之ヲ觀レハ吾人ハ吾人ノ乗車ヲ上天ノ行星ニ繋ギ轡ヲ駢ベ轡ヲ連テ俱ニ宇宙ノ大道ヲ趁ハサルヘカラス徒ニ酒壺ヲ充タシ米庫ヲ殖ヤシ錢囊ヲ太ニセント欲スルカ如キハ鄙吝ノ甚キモノ吾人ハ宜ク斯ノ如ク劣情ノ目的ノ爲ニ卑下ナル業務ノ爲ニ齷齪勞動スヘカラス又苟クモ詐譎竊盜等ノ邪思非行ヲナスヘカラサルナリ否ラサレハ無數ノ天体一モ吾人ヲ輔ケ吾人ヲ導クコトナカルヘシ吾人既ニ彼等ニ背カバ彼等何ソ吾人ヲ守ラン彼等ノ駟馬ハ忽チ彼等ノ車駕ヲ驅リテ遠ク他道ニ轉シ去ルヲ見ンちや一れすうえーんぐれーとびーあかりかん、れを、はーき。れす等

悪魔ノ善用

ノ星宿ヲ始メ森羅無數ノ諸天体ハ悉皆吾人ヲ放棄ノ將ニ顧ミサラントス然ラハ則吾人ハ皇天上帝ノ指示ニ從ヒ彼ノ尊崇スル所ノ者ハ吾人モ亦之ヲ尊崇スベシ彼ノ獎勵スル所ノ者ハ吾人亦之ヲ獎勵スヘシ即正義ノ爲ニ愛情ノ爲ニ自由ノ爲ニ智識ノ爲ニ實利ノ爲ニ吾人ハ働カサルヘカラサルナリ斯ノ如ク若シ吾人カ上天運行ノ大道ニ依リテ百種ノ事業ヲ整理設置シ天神かりんびあノ玉輦ニ陪駕シテ以テ趨クヲ得バ則又悪魔ト暗鬼トノ跳梁跋扈ヲ轡勒牽制シテ以テ其惡意ヲ挫ケ兇性ヲ矯メテ更ニ智識ト善徳トノ反對ナル目的ニ順合シテ勤役勞作セシムルコトヲ得ベキナリ酒ト烟草ハ人間ニ快樂ヲ與フルトコロノ害毒物ナリ悪魔ナリ凶鬼ナリ然レドモ賢明ナル政府ハ之ヲ以テ之ヲ斥ケズ



却テ此魔鬼ヲバ奇貨トナシ從テ善用ノ法ヲ施スナリ善用  
 ノ法如何蓋シ酒ト烟草ニ科料罰金ヲ賦課ノ以テ國庫ノ富  
 實ヲ謀ルニ在リ今我亞米利加合衆國政府ノ如キハ未ダ財  
 政窮迫ノ困難ヲ脱シ得ザルモノ若シ彼ノ害毒物ヲうえずけ  
 いらむ等ノ酒類ニ課スルニ重稅ヲ以テシ殆ド禁制ノ極點  
 ニマデ及ボシタランニハ依リテ以テ政府ノ歲入ヲ補充ス  
 ベキハ勿論各州村落都府ニ蒙ムル所ノ幸福恩惠ハ果シテ  
 幾何ナルベキゾ佛帝ホばれをんほあばるど(？)コノ惡魔ヲ  
 尊稱シテ真正ノ善良ナル愛國者ナリトシ嘗テ人ニ語リテ  
 曰ク「余ハぶらんで愛飲者ヨリ五、百、万、圓ノ收入ヲ得タリ  
 如何ナル善徳アリテカ能ク斯ノ如キ巨額ノ金ヲ政府ニ拂  
 ヒ得ヘキゾ願フハ之ヲ聞カン」ト然ラハ害毒物ノ功德モ亦

文明ノ程度ヲ測  
 ル真正ノ標準ハ  
 物質的ノ現象ニ  
 アラスシテ精神  
 的ノ現象ニアリ

大ナリト謂フヘシ元來酒烟草及鴉片等ノ凶魔ハ軀幹魁偉  
 筋骨強武ニシテ廣大ナル背部ヲ有セリ此故ニ政府若シ之  
 ニ命スルニ陸海軍費ノ重キ負擔ヲ運フコトヲ以テセハ彼喜  
 テ之ヲ其廣背ニ積載スヘキナリ蓋シコレヲノ飲料ハ一方  
 ニハ人間ニ快樂ヲ與フルコトノ大ナルモノナルカ故ニ其  
 快樂ノ大ナル度ニ從テ課稅ノ率ヲ高ムヘク又一方ニハ人  
 間ニ害毒ヲ流スコトノ甚キモノナルカ故ニ其害毒ノ甚キ  
 度ニ應シテ是亦同ク重稅ヲ課スヘキノ理アルモノト爲ス  
 ナリ  
 サテ以上陳述シ來リタル所ノ數多ノ條件ハ文明社會ニ於  
 テ常ニ見ルヘキ所ノ情態ニシテ又開化ヲ測ルノ尺度トモ  
 謂フヘク又開化ヲ致スノ方法トモ稱スヘシ然レトモ一國



開化ノ程度ヲ試験スヘキ真正ノ標準ハ如何ト問フニ人口ノ多寡ニアラス都會ノ大小ニアラス農産物ノ豊否ニモアラス否是等有形的ノ外觀ハ以テ多トスルニ足ラス要スルニ其國ニ栖息スル人民ノ種類如何ニ存スルモノト謂ハサル可ラス余ハ我合衆國カ幸ニ地球上温帶ノ幅員ヲ占領スルヲ得テ頗ル天與ノ利益ニ富メルヲ知ル天然ノ形勢カ開化ノ發達ニ順應シテ大ナル便宜ヲ與フルヲ喜フナリ是ヲ以テ我國ハ日ニ月ニ驚クヘキ進歩ヲ爲シ限ナキ有形物質的ノ繁榮ノ現象ヲ呈シ州々相臨ミ都府又都府ニ隣接シ金銀財寶ノ富ハ街衢ノ高樓大廈ニ邱積山堆セラレかりふほるに多州ノ礦山ヨリ日々斫リ出ス所ノ石材ハ朝夕車載送致シテにゆーよるく府ニ卸スコト幾何ナルヲ知ルヘカラス

而シテ此幾千方石ノ石材ハ北かゝだノ隅ヨリ南きゆばノ盡頭ニ及ヒ更ニ又西折シテ太平洋ノ海岸ニ至ルマテ再ビ建築的ニ層々疊ミ上ケラレ雲ヲ凌グノ臺閣樓屋トナル嗚呼誠ニ盛ナリト謂フヘシ然リ然レトモ開化ノ真正ナル評價ヲ定ムヘキ所以ノモノハ果シテ之ニ在ル乎好シ今にゆーよるく市街カ衆工ノ巧妙ヲ盡シ國民ノ富財ヲ聚メテ壯麗華美ノ築造ヲナシ廣袤ノスフトコロ南方ハひらでるひあ府ニ接近シ北方ハにゆーへーぶんはーとふをるどすぶりんぐふいーるどをるせずたあ及ヒぼすとんノ諸府ヲ貫珠連續スルトセン歟吾人ハ之ヲ以テ我邦ノ文明ヲ誇稱スルニ足ル乎否々未シナリ然ラハ則チ何ヲ以テカ文明ノ真相トハ爲スツ曰ク都府ノ大陸ニ星聚スルヤ土地ニ活潑ナ



ル生氣ヲ與ヘテ之ヲ賑ハシ燦然タル光輝ヲ添ヘテ之ヲ飾  
 ルモノナリト雖モ徒ニ其外觀ニ眩惑セス更ニ其裏面ニ入  
 リテ觀察ノ眼ヲ凝シ政府カ人民各自ノ日々ノ生業ニ干渉  
 スルコト甚僅少ナルヲ視又人民カ獨立自治ノ精神ニ富ミ  
 商業ノ結社ナリ姻戚血親ノ團欒ナリ家々交際ノ集會ナリ  
 總テ純然タル人生自然ノ會社ニ於ケル種々ノ結合力皆自  
 ラ助ケ自ラ理ムルノ美風アルヲ視又吾人百般ノ事業ヲ爲  
 スヤ意見ハ其公明正大ナルヲ尊ヒ技藝ハ其永キ歲月ノ熟  
 練ト巧ミナル才智ノ管理ヲ重スルヲ視又婦人ノ男子ニ對シ  
 テ有スル改良教化ノ感應力如何ヲ視又經驗ニ長ケタル老  
 者ノ杖ト恒久必然ノ理法ノ燈臺カ青年軟脚ノ徒ヲ誘導シ  
 テ蹉跌ノ誤ナカラシメ盲心ナル勞力者ノ前路ヲ燭シテ嚮フ

所ヲ知ラシムル所ノ懇至ナル案内ヲ視又一代公衆ノ尊仰  
 ヲ受ケ榮譽ヲ荷フトコロノ有徳有能ノ大人君子カ名聲未  
 タ世上ニ籍甚セサル而レトモ夙ニ後來有爲ノ資ヲ負ヒタ  
 ル俊秀多望ノ後進諸輩ヲ慈愛誘掖シ管ニ之ニ止マラス尙  
 諸生ノ稟質ニ依リ其德行アルノ故ニ其諸能力ノ均一發達  
 ヲ遂クルノ故ニ其元氣ノ旺盛ナルノ故ニ恐ラクハ正心誠  
 意ヲ以テ後輩ヲ推尊薦舉シテ己ノ上位ニ置クコトヲ吝マサ  
 ル所ノ卓識高風ヲ視ル時ハ姦メテ茲ニ我亞米利加合衆國  
 ノ文明ノ價值カ果シテ幾何立方ノ容積アルカヲ算スルコ  
 ヲ得ルナリ之ヲ概スルニ廣大繁盛ノ都會ヨリモ千万無量  
 ノ財貨ヨリモ政府ト人民トノ關係人民ト人民トノ關係男  
 子ト女子トノ關係老者ト壯者トノ關係先進者ト後進者ト



道德カ文明ノ發達ニ及ホス所ノ勢力

ハ關係其他種々ナル無形精神的會社ノ情態ニ於テ適當確實ナル文明開化ノ證左ヲ認識シ得可キモノトス  
精密ナル意義ヲ以テ之ヲ謂ヘハ開化ノ純粹精英ナル社會生活ノ血氣ハ道德ノ進歩ト智力ノ發達ニ在リ東西古今聖賢名哲ノ士カ超絶非凡ノ見識ト博愛仁慈ノ行爲ヲ以テ培養開發シタル高大ノ教誨ハ實ニ一世ノ泰斗千歳ノ儀範トシテ万民ノ心胸ヲ薰陶開拓シ以テ文明ノ素地ヲ成セルモノナリ希伯來ニ在リテハもせずノ十誠ヲ垂レタルカ如キ支那ニ在リテハ孔子ノ周未戰國ノ代ニ崛起シテ仁義ノ道ヲ説キ天下後世ノ師表トナリタルカ如キ印度ニ在リテハ釋迦牟尼佛ノ婆教橫行ノ際ニ出テ衆生塗炭ノ苦ヲ濟度シタルカ如キ希臘ニ在リテハ七賢人テ一るすびやすび

つたてずそろんくれおみに一すみそんちろん諸士ノ始メテ哲理ヲ講究シタルカ如キ聰明公正ナルそくらて一すノ詭辨左道ヲ排シテ人生倫理ノ實學ヲ開キ毒酒一盞身ヲ犠牲ニ供シテ弟子ヲ勵マシタルカ如キすとあ學派ノ始祖ゼのーが淫風頹俗ノ日ニ興リテ希臘ノ國家ヲ倒瀾ニ回シタルカ如キ猶太ニ在リテハ耶蘇基督ノ阪邑ニ降誕シテ泰西無二ノ宗教ヲ創メ道義ノ光明ヲ發輝シタルカ如キ近代基督敎國ニ在リテハ實体學派はつすさぶをあらるゝてる諸家ノ正義ヲ首唱シ宗教改革ノ氣運ヲ成シタルカ如キハ總テ皆億兆凡衆ノ上ニ嶄然峙立シテ道德ノ標準トナリ開化ノ源泉トナリ人類ヲ嚮導シテ新鮮ナル思想ノ大氣ニ進入セシメ生活ノ法ヲ改メ社會ノ位置ヲ高メタルモノナリ



其功德ノ鴻大ナル如何ナル者ト雖モ以テ比スベクモアラズ印刷術ナリ銃砲ノ硝藥ナリ蒸氣力ナリ瓦斯燈ナリ電管ナリ護謨靴ナリ機器ノ創造技術ノ發明ハ文化ヲ進メ幸福ヲ増スコト固ヨリ多言ヲ待タズト雖モ然レドモ之ヲ彼天命ヲ受ケ洪範ヲ遺シタル聖賢ノ眼前ニ提出シテ揚言誇稱スルハ瑣細ノ小事塵埃ニタモ如カザルナリ如何トナレバ完全堅固ナル道德風教先ヅ社會ニ行ハレテ以テ人生ノ安寧幸福自由快樂ヲ増進シ而シテ後凡百ノ發明從テ出テ來ルモノナレバナリ抑道德ハ本ナリ機械ハ末ナリ後者ハ前者ノ反射ヨリ生シタル翫弄物ニ過ギザルナリ畢竟種々ノ技術ハ家屋ヲ華麗ナラシメ街道ヲ平坦滑澤ナラシメ人間衣食住ノ生活ヲシテ快心適意ナラシムト雖モ思フニ只是

一國ノ文野ヲ判別スベキ要件

形而下ノ事ノミ若シ夫レ純潔高大ナル道德ノ力ニ至リテハ人間ノ才智ヲ益激發長進シ社會ノ開化ヲ層一層開化スルノ働キアリ昨日ノ巧技ハ忽チ一步ヲ運テ今日ノ拙工ニ變シ現在神聖秘密ノ觀ヲ爲スモノハ更ニ一轉シテ將來ノ平凡一樣ノ常茶飯トナスコト猶ひゆいぞノ酸素燈一タビ輝テ石油燈其光明ヲ失ヒ暗然タル影象ヲ生スルカコトキナリ故ニ社會文野ノ程度ハ全ク正ニ人民道德ノ高低ニヨリテ定メラレサルヘカラスサハ然リナガラ尙一般世人カ開化ノ進歩ヲ測ルトコロノ通俗尺度ヲ求メハ多分技術ノ如何ト法律ノ如何トニ存シ之ヲ觀ハ先ツ其肯綮ヲ得ルニ庶幾カラソカ

余ハ既ニ開化ノ意義及狀態ヲ汎論シ了レリ是ニ於テ當サ



ニ一國文野ノ如何ヲ試験スヘキ細條ヲ舉示スヘシ若シ今  
 次ニ臚列スルトコロノ資格ノ一箇條ニモ應スル能ハサル  
 所ノ邦國アラバ未ダ野蠻ノ名稱ヲ免レサルモノナリ敢テ  
 問フ資格トハ如何曰ク保安條例若クハ國法ノ危險險難ヲ  
 冒スニアラサレハ智識見聞ヲ浹洽傳播スルコト能ハサル  
 ノ邦反言スレハ法律ニ於テ教育學術廣キ意味コテ言フノ  
 普及ニ反對スル所ノ邦言論自由ヲ得サル所ノ邦郵便局或  
 ハ破壊毀損ノ難ヲ受ケ郵便袋亦開放セラル、コトアリ人  
 民彼此交通ノ書信時ニ抑留破封ノ不幸ニ逢ヒ秘密檢閲ヲ  
 蒙ルル所ノ邦一國ノ公債及ヒ人民相互ノ私債カ契約ヲ履  
 行セラレサル所ノ邦社會ノ有機体ヲ組織スル所ノ原始細  
 胞ナル一家内ノ制度ニ於テ自由ノ精神カ既ニ攻撃非難セ

ラル、所ノ邦皎潔淑徳ノ婦人ノ位置カ陰暗汚行ナル女子  
 輩ノ法律上正當ノ保護ヲ受クル能ハサルヨリ從テ不利益  
 有害ナル影響ヲ及サル、トコロノ邦國內ニ有ルト有ラユ  
 ル種々ノ工藝技術カ悉皆他國ヨリノ輸入傳習ニ係リ徒ニ  
 他ノ摸擬剽竊ヲ事トシ自ラ發明創作スルコトヲ知ラヌ一  
 モ本來固有自國土生的ノ活潑奕々タル生命ヲ有スル特技  
 ナキ所ノ邦勞力者カ辛苦作役膏ヲ絞リ汗ヲ流シ自身ノ兩  
 腕兩脚ヨリ産出シタル工銀ノ取得所有權カ安全ニ保護セ  
 ラレサル所ノ邦一國人民ノ公權タル議員選舉ノ法カ自由  
 ナラス平等ナラサルトコロノ邦アラハ則チ此等ノ邦國ハ  
 此等ノ點ニ於テ未ダ開化セサルモノト謂ハサルヘカラス  
 即是野蠻不文ノ現象ナルナリ然リ而テ是ノ如キ人爲ノ茶



毒深ク骨髓ニ侵蝕シタル所ノ野蠻ノ邦國カ外圍ノ事情ニ於テ若シ幸ニ豊穰肥沃ナル地味温暖中和ノ氣候港灣ニ富ミ水利ニ便ナル海岸等ヲ有シ人文發達ニ適應セル天然地文ノ利益ヲ享受スルヲアリトモ畢竟病原ニ溯リ伏因ヲ發シ華陀ノ利刀ヲ借リテ國家ノ毒ヲ削リ扁鵲ノ明診ヲ請フテ以テ開化ノ良藥ヲ服セサル限ハ到底此自殺的ノ傷害ヲ回復全癒スルコト能ハサルモノナリ

屢次反復論辨シタル如ク道德ト及ヒ道德ノ大本ヨリ演繹支分シ道德ニ伴隨附屬スルトコロノ諸ノ道理想則ハ文明開化ノ進歩ニ最緊要ニシテ缺クヘカラサルモノナリ凡ソ公民ノ正義ヲ重ンセサル可ラサルカ如キ又一己人トシテハ人身ノ自由ナカルヘカラサルカ如キハ是レ皆道德ノ範

もんですさゆー  
氏ノ格言及解釋

圍内ニ於テ然ラサルヲ得サルトコロノモノニシテ俱ニ開化ノ發達ニ必須ナルモノナリ佛國ノ鴻儒もんですさゆー氏ノ語ニ曰ク諸邦國ノ能ク開拓耕作ノ功ヲ舉グルコトヲ得ル所以ノモノハ其國土地ノ豊饒ナルニ因ラスシテ却テ其國制度ノ自由ナルニ因ルモノナリト宜ナル哉此言ヤ然リト雖モ余ヲ以テ之ヲ觀レハ此格言ハ單ニ土地耕耘ノ點ヨリ之ヲ眺メノヨリ寧ロ人心開發ノ點ヨリ之ヲ看タランニハ更ニ真正適實ナル旨趣ノ含蓄スルモノト思惟スルナリ蓋シ國家ノ制度自由ナラサレハ人民ノ道德智識得テ其進化ヲ望ムヘカラス壓制政府ノ下ニ呻吟栖息スルトコロノ人民ハ常ニ野蠻愚昧ナルモノナリ

余ハ今茲ニ本篇ノ論局ヲ結ヒ筆ヲ擱セントスルニ方リ開

結論、  
高度ノ文明



化ノ一大斷案ヲ下シテ以テ讀者ニ贈ラン曰ク開化ノ最高  
 頂點ニ達セル所ノ證據ハ一國全体ノ公衆ノ行爲カ最大數  
 ノ最大善ヲ保護セシメコトヲ以テ正鵠トシ之ニ歸着進向ス  
 ルニ在ルナリト

文明論終

文明論跋

模擬剽襲巧ニ外觀ヲ粧ヒ猥ニ虛名ヲ釣ル是レ果シテ  
 開化ナル乎外ヲ尊ビ内ヲ卑ミ好メテ身ヲ奴隸ノ地位  
 ニ置キ而シテ世ニ處シ却テ揚々得色アリ是レ果シテ  
 開化ナル乎巧慧浮薄ニシテ權詐ニ長シ守操ニ乏シク  
 道義地ニ委ス是レ果シテ開化ナル乎蓋シ本邦人士ノ  
 性タル機敏早慧ニシテ諸藝ニ通熟スルコト頗ル捷速  
 ナリト雖其弊ヤ忍耐精勵ノ精神ト發明工夫ノ能力ニ  
 乏シク自新機軸ヲ出ス能ハズ遂ニ往々他人ノ籬下ニ  
 屈スルヲ免レズ維新以來外人ト交通スルニ至リ彼レ



ノ文物風尚ヲ羨慕スルノ餘相競テ輸入模倣ヲカメ其  
 利弊適否ヲ擇フニ暇アラズ萬事西風ニ化セントスル  
 ノ弊ハ一國固有ノ美風ト雖動モスレバ無智輕薄者ノ  
 排斥スル所トナルニ至レリ而シテ彼輩厚顏自以テ文  
 明開化ト爲ス豈捧腹ノ至リナラズヤ友人佐藤千里米  
 人エメルソン著ス所ノ學說一篇ヲ譯シ題シテ文明論  
 ト曰フ携へ來リ余ニ示シ一言ヲ需ム余受ケテ之ヲ讀  
 ムニ其開化ノ性質ヲ論斷スルユト最明快的確擊節拍  
 案ノ妙アリ篇中開化ノ本旨ハ道德ヲ以テ社會人心ヲ  
 規律スヘキニ在ルト自主獨立心ノ發達確立セザルベ

カラザルヲ説キ思想力ヲ天然力ニ應用スルノ要ヲ論  
 シ而シテ篇末ニ至リ國人獨得ノ見ナク漫リニ外物ヲ  
 模擬スルヲ以テ未開ノ實ヲ論證セルカ如キハ本邦今  
 日ノ時弊ニ適中スルモノニシテ世ノ躁進者ヲシテ警  
 戒セシムルニ足レリ抑北米合衆ノ國タル建國僅カニ  
 百年ニ過キスト雖人文發達財貨富實歐洲諸邦ノ畏敬  
 スル所タリ是皆該國人民ノ自得ル所ニシテ歷史上開  
 化ノ標準トシテ其進步ノ跡ヲ研究スルニ最適當ナル  
 者ナリ嗚呼學殖贍富識見超邁ナル此人ニシテ此國ニ  
 在リ以テ此論ヲ草ス其議論ノ鑿々肯綮ニ中ル豈怪ム



ニ足ランヤ此篇ヲ讀ムモノ深ク我國ノ現狀ニ察スル  
所アリ而シテエ氏ノ論ニ於テ三タビ意ヲ致サハ真正  
ノ文明開化豈至リ難カラシヤ仍テ一言ヲ卷末ニ附ス

明治二十二年十一月

克堂 莊田三平撰

明治二十三年四月十五日印刷  
明治二十三年四月十六日出版

定價金拾貳錢

譯述者 佐藤重紀

神田區小川町十八番地

發行兼印刷者 野口竹次郎

日本橋區本石町二丁目十八番地



發兌元 博文館

東京日本橋區本石町三丁目十六番地



博文館發兌書籍目錄

文學士三宅雄二郎君序文 坪谷善四郎君著

●佛蘭西史 全壹冊 洋裝美本 正稅價三拾錢 宮川鉄次郎君著

●希羅馬史 全壹冊 洋裝美本 正稅價三拾錢 米峯小山正武並東海散士柴四期兩君序文

●土耳機史 全壹冊 洋裝美本 正稅價三拾錢 北村三郎君著

●印度史 全壹冊 洋裝美本 正稅價三拾錢 北村三郎君著

●支那帝國史 全壹冊 洋裝美本 正稅價七拾錢 松井廣吉君著

●日本帝國史 全壹冊 洋裝美本 正稅價三拾錢 松井柏軒大人撰

●和漢名家詩集 全壹冊 洋裝美本 正稅價二錢五厘

樞密顧問官東久世通禧公題辭

●千代田歌集 全壹冊 洋裝美本 正稅價二錢五厘 御歌所長高崎正風君題詠 佐々木弘綱大人撰

●高等小學校 全壹冊 洋裝美本 正稅價一錢五厘 文部大臣覆本武揚公石版肖像入 流鶯散史谷口政德君著

●尋常小學校 全壹冊 洋裝美本 正稅價一錢五厘 皇太子明宮嘉仁親王殿下石版肖像入 流鶯散史谷口政德君著

●幼稚園 全壹冊 洋裝美本 正稅價一錢五厘 第一高等中學校教諭小中村義象先生序文 日本之少年主筆須永金三郎君著

●通俗學術演說 全壹冊 洋裝美本 正稅價二錢五厘 司法省參事官補法學士城敷馬先生序文 日本之法主筆宮川大壽君著

●通俗法律演說 全壹冊 洋裝美本 正稅價二錢五厘 文學士高田早苗君序文 坪谷善四郎君著

●通俗政治演說 全壹冊 洋裝美本 正稅價四錢五厘 天台道士杉浦重剛先生序文 柏軒松井廣吉君著

●日本內閣論 全壹冊 洋裝美本 正稅價四錢五厘



樞密顧問官從二位伯爵勝安芳公著

●七友帖

全壹冊 上製正價八拾五錢並製正價六拾五錢  
和裝美本 上製郵稅拾錢 並製郵稅八錢

●假名交文典

全壹冊 和裝美本 郵稅二錢  
帝國大學總長渡邊洪基君題辭 元老院議官福羽美靜君校閱 田中泮平君編述

●金合本

全壹冊 正價三拾錢  
米國商業博士フロードレー氏原著 天野文學士志賀農學士兩君序文 坂牧勇助君譯補  
國家致富之要訣 青年立身之方針(六)全壹冊 正價三拾錢  
立身出世之錦囊(版)洋裝美本 郵稅八錢

●新日本商業用文

全壹冊 洋裝美本 正價六錢  
東京經濟雜誌主筆田口卯吉君序文 須永金三郎君著

●實地日本用文大全

全壹冊 洋裝美本 正價六錢五錢  
元老院議官巖谷修君題辭 內山正如君編纂

●大日本織物誌

全壹冊 洋裝美本 正價四錢五錢  
宮中顧問官品川彌二郎公題辭 須永金三郎君著

●大日本樂しみ草紙

全壹冊 洋裝美本 正價三拾錢  
大平樂人著 昭代之樂園 福祿之本府 樂しみ草紙

●朝日嶽の傳

全壹冊 洋裝美本 正價八錢  
福祿之本府 樂しみ草紙 朝日嶽の傳

東北日報主筆小林雄七郎君著

●薩長土肥

全壹冊 洋裝美本 正價拾五錢  
文學士三宅雄次郎先生序文 坪谷善四郎君著

●政治新論

全壹冊 洋裝美本 正價四錢五錢  
小中村義象。落合直文。增田千信。丸山正彦。萩野由之五先生合著

●外交

全壹冊 洋裝美本 正價四錢  
帝國文科大學教授內藤耻叟先生著

●國體發輝

全壹冊 洋裝美本 正價八錢  
柳原元老院議長吉田樞密顧問官兩公題辭 菊地洋學博士斯波法學士兩君序文

●大日本帝國憲法註釋

全壹冊 洋裝美本 正價拾五錢  
添田文學士堀山法學士內藤文科大學教授三君校閱 坪谷善四郎君註釋

●附

皇室典範。議院法。撰舉法。會計法。貴族院令。悉皆註釋  
日本帝國憲法史。歐米四大國憲法

●大日本帝國憲法正解

全壹冊 洋裝美本 正價拾錢  
控訴院評定官法學士伊藤悌治君校閱 園田賚四郎君著



文學士高田早苗君序文

坪谷善四郎君著

●萬國憲法

遞信次官前島密公題辭

法學士江木衷君序文

坪谷善四郎君著

●市町村議員必携

法學士江木衷君序文

坪谷善四郎君註釋

全壹册

郵正價三拾錢

●市制町村制註釋

法制局參事官中橋德五郎君序文

法學士山田喜之助君校閱

全壹册

郵正價二拾錢

●公証人規則實用

外務省參事官法學士江木衷君著

全壹册

郵正價三拾錢

●法律解釋學

飯島半十郎君著

全壹册

郵正價四拾錢

●家事經濟書

尙古堂主人著

全壹册

郵正價二拾五錢

●溫故知新

三木愛花仙史閱

風月散史著

全壹册

郵正價三拾錢

●東京獨案內

編新

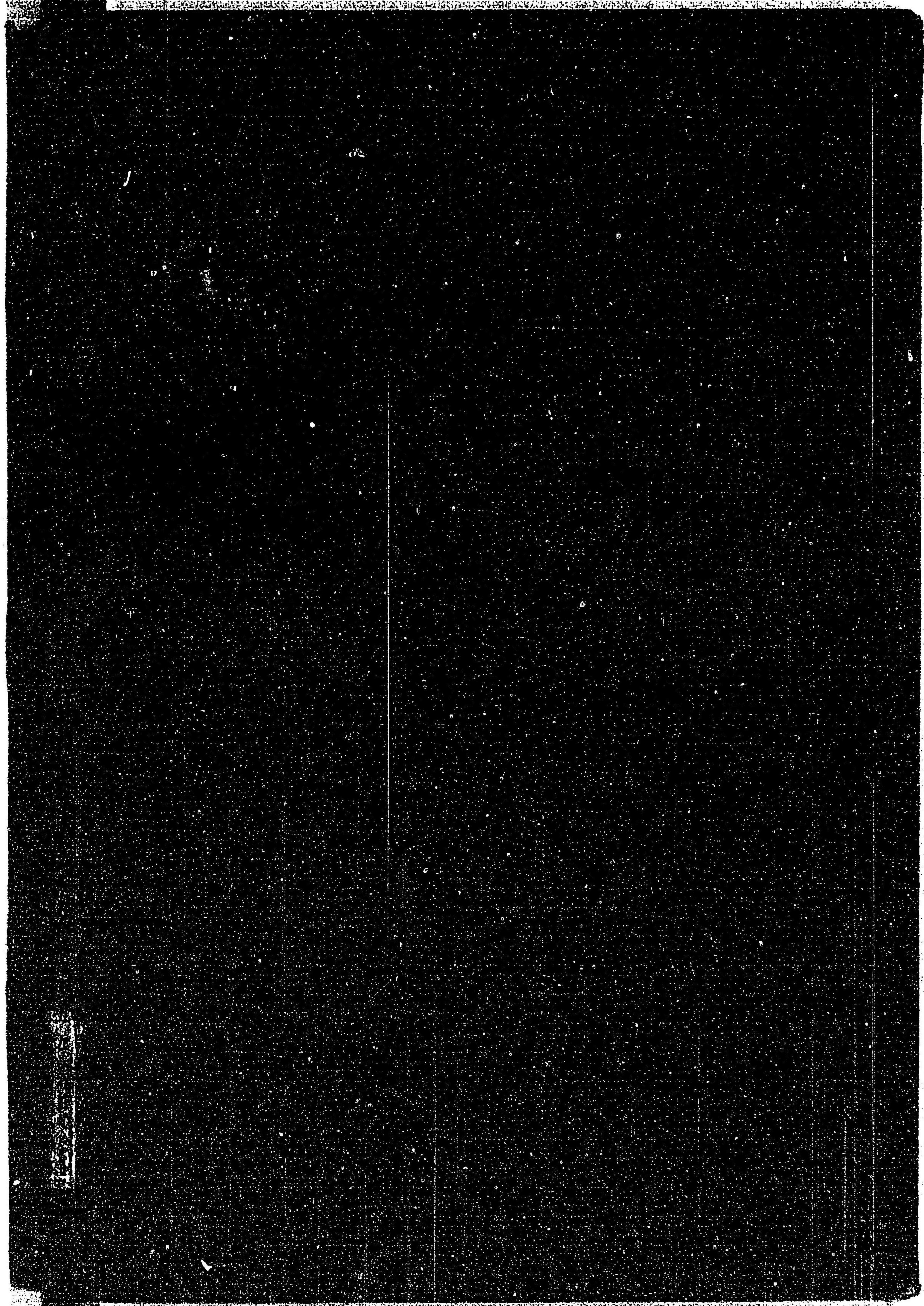
全壹册

郵正價三拾錢



18  
133







039706-000-5

18-133

文明論

エメルソン/著

M23.4

BDA-0291





